

令和7年度 シラバス

科目名	生物			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期	1	講義
担当教員	植村壽公			
実務経験	再生医療の臨床にて細胞培養の指導を行う、再生医療学会認定上級臨床培養士の資格を有する。			

授業概要

鍼灸学科で必要となる生物学的知識を学ぶ。

到達目標

鍼灸学科で知識、技術を養う上で必要な生物学的知識を養う。

準備學習

予習は必要としないが、毎回の講義を学習し、それに付随する課題提出のため学習する。

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
課題提出による評価により成績評価を行う。

使用テキスト	教科書なし、参考資料配布。
--------	---------------

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

授業計画

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	栄養学				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	1年	1学期	2	対面	1	ガイダンス	栄養学とは、食べることの意味について考える
担当教員	和田政裕・和田佐和子				2	栄養アセスメント	栄養状態の把握の仕方 1
実務経験	医療施設等において、管理栄養士としての実務経験を有する。				3	栄養アセスメント	栄養状態の把握の仕方 2
授業概要					4	栄養素の基本	三大栄養素、五大栄養素
人が生きていますと起こる様々な身体のパラ現象を生理といい、このような人の生理と摂取した食物の関係、食物に含まれている栄養素の基本知識を習得する科目である。					5	三大栄養素	炭水化物 1
到達目標					6	三大栄養素	炭水化物 2
解剖学、生理学から発展して、人の体に食事がどう影響するかを理解することを目標とする。人の自然治癒力と栄養状態は密接に関係しており、鍼灸や徒手療法の治療効果を左右する要因となるため、ケガや不調と栄養状態の関係について理解できるようになることが必要である。					7	三大栄養素	たんぱく質
準備学習					8	三大栄養素	脂質 1
事前学習：栄養学については知らないことばかりで構わないので、講義前にテキストを読んで、知らない言葉や、読んでも理解できない内容を確認してから講義に臨む。					9	三大栄養素	脂質 2
成績評価					10	消化・吸収	消化
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）					11	消化・吸収	吸収
使用テキスト	『栄養の基本がわかる図解辞典』（中村丁字監修 成美堂出版 ISBN：978-4-415-32743-3）				12	五大栄養素	ビタミン
					13	五大栄養素	ミネラル
					14	総復習	総復習
					15	試験	まとめ・定期試験
					16	答案返却	試験の解説

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名	心理学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	3学期	1	オンデマンド
担当教員	遠田 諭			
実務経験	-			

授業概要
心理学は幅広い学問領域であるが、その中でも鍼灸師として患者に接する際に役に立つ知識を中心に講義を展開していく。鍼灸師として患者の身体的側面だけでなく、心理・社会的側面も含めて患者の背景を理解し、適切な治療を行えるよう臨床心理学を中心とした実践的知識を学ぶ。
到達目標
本講義を通して、臨床心理学を中心とした心理学の知識を身につけることで、患者の心理・社会的側面の理解を促進し、患者との適切な関係性を構築・維持することができるようになることを目標とする。また、鍼灸師として働いていくにあたり、セルフケアも適切にできるようになることを目標とする。
準備学習
レジュメに目を通したうえでオンデマンド動画を視聴すること。また各回の課題に対し、レジュメ記載の参考文献等も参照しながら取り組むこと。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 各回の課題の評価を中心に総合的に評価する。

使用テキスト	講義全体における使用テキストはない。各回の参考文献はレジュメに記載するので、適宜参照すること。
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	心理学の全体像	本講義の目的と範囲
2	痛みと心理Ⅰ	学習理論による理解
3	痛みと心理Ⅱ	痛みの心理社会的側面の評価
4	痛みと心理Ⅲ	発達心理学（アイデンティティ理論）による理解
5	行動療法Ⅰ	レスポナント学習
6	行動療法Ⅱ	オペラント学習／観察学習
7	認知行動療法Ⅰ	ABC理論／自動思考／認知行動療法の基本的枠組み
8	認知行動療法Ⅱ	認知・行動へのアプローチ：認知再構成法／行動活性化
9	認知行動療法Ⅲ	リラクゼーション／マインドフルネス
10	精神分析Ⅰ	無意識／防衛機制
11	精神分析Ⅱ	疾病利得／転移・逆転移
12	人間性心理学	マズローの「欲求階層説」／ロジャーズの「セラピストの3条件」
13	社会心理学	説得的コミュニケーション／自己開示の返報性／パーソナルスペース／好意の返報性
14	ラポールの形成	受容と共感を中心に
15	心理的距離と倫理観	職業的倫理について
16	セルフケア	アサーションなど

令和7年度 シラバス				
科目名	薬膳学 2			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期	2	オンデマンド
担当教員	和田政裕・和田佐和子			
実務経験	医療施設等において、管理栄養士としての実務経験を有する。			
授業概要				
薬膳とは東洋医学（中国伝統医学）の基礎理論に基づき、疾病の予防や健康維持、治療を行う食養生法である。薬膳の基礎、季節の食養生、さらに鍼灸治療と密接にかかわる各種疾患に対応できる薬膳の施膳方法について学ぶ。				
到達目標				
東洋医学（中国伝統医学）と食材が持つ食性や効能を理解し、疾病、不調症状に対して的確に食材を選択して、患者へアドバイスをしたり、実際の鍼灸治療と組み合わせて、鍼灸治療や徒手療法の治療効果を上げられるようにすることを目標とする。				
準備学習				
事前学習：東洋医学概論、薬膳学 1 の講義の教科書、配布物を読み、日々興味をもって食事をする。				
成績評価				
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	『すこやかな身体をつくる 薬膳食材大全』（梁蓓 監修 アプリスタイル出版 ISBN：978-4-908050-83-1）			

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	薬膳を科学的にみる
2	薬膳と栄養学	栄養学と薬膳学 ハイブリッド⑥薬膳とは
3	中医学の基礎知識	気とは
4	弁証施膳	体質の分析の仕方
5	気の病証と薬膳 1	脾気虚の薬膳
6	気の病証と薬膳 2	肺気虚の薬膳
7	気の病証と薬膳 3	腎気虚の薬膳
8	気の病証と薬膳 4	心気虚の薬膳
9	気の病証と薬膳 5	気滞・気鬱・気逆の薬膳
10	血の病証と薬膳 1	血虚の薬膳
11	血の病証と薬膳 2	瘀血の薬膳
12	津液の病証と薬膳	痰湿の薬膳
13	感冒の薬膳 1	風寒感冒
14	感冒の薬膳 2	風熱感冒
15	試験	まとめ・定期試験
16	総括	試験解説と総復習

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <鍼灸学科>

科目名	健康科学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期	2	対面
担当教員	長澤康弘			
実務経験	-			

授業概要
我が国の健康づくりの動向，課題を理解しつつ，それぞれの健康課題への基本的な知識や対策について学ぶ。鍼灸師として患者，家族に健康づくりを実践する際の一助にしていきたい。
到達目標
我が国の健康づくりの動向，課題について把握すること。 それぞれの健康課題の対策，目標について把握すること。 健康課題への対策，トレーニング方法について理解すること。資格取得後，本講義の内容を振り返って患者や家族に実践できると望ましい。
準備学習
以下をウェブ検索して閲覧しておくといい 健康日本 21（第三次）推進のための説明資料 健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023（案） 健康づくりのための睡眠ガイド2023
成績評価
定期試験の点数を評点とし、評価する。

使用テキスト	配布資料
--------	------

授業計画		
回数	単元	内容
1	我が国における健康づくり	本科目のオリエンテーションを実施する。 我が国の健康づくりの動向とその課題について説明する。
2	身体活動・運動	健康づくりにおける身体活動・運動について説明する。
3	筋力トレーニング	筋力トレーニングの方法について説明する。
4	全身持久力	全身持久力の向上にあたっての有酸素運動について説明する。
5	座位行動（座りすぎ）	座位行動が心身に及ぼす影響，対策について説明する。
6	食生活，栄養	食生活，栄養の重要性，減量方法について説明する。
7	酸化ストレス	生活習慣が及ぼす酸化ストレス，抗酸化作用について説明する。
8	睡眠	睡眠が心身に及ぼす影響，睡眠問題への対策について説明する。
9	健康づくりと環境	健康づくりを実践するうえでの環境の重要性について説明する。
10	行動変容	運動，食行動を中心とした行動変容，行動変容ステージについて説明する。
11	痛み対処方略	我が国に多い慢性腰痛，膝痛への対処方略（認知行動療法）について説明する。
12	メンタルヘルス	メンタルヘルスの重要性，ストレスへの対処方略（認知行動療法）について説明する。
13	介護予防政策	我が国における高齢者の介護予防政策，地域包括ケアシステムについて説明する。
14	こどもの健康	次世代を担うこどもの健康問題と対策について説明する。
15	定期試験	総復習と1回目から14日目までの定期試験を実施する。
16	定期試験解説	定期試験の解説を行う。

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	コミュニケーション				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	2年	3学期	2	講義	1	授業オリエンテーション	担当講師紹介、授業の目的・内容・手法及び成績評価について
担当教員	西田 弘次				2	What's communication?	対人コミュニケーションの基礎
実務経験	-				3	受信力・発信力トレーニング 基本①	反応・発声トレーニング
授業概要					4	対人カトレーニング 基本①	姿勢改善トレーニング
円滑な対人関係を築くためのコミュニケーション及びメンタルコントロールに関する基本的な概念・モデル・スキルを確認及び学習し、日常生活において実際に使えるようにするための実践トレーニングを行う。					5	発信力トレーニング 基本②	分かりやすい話し方トレーニング
					6	対人カトレーニング 基本②	依頼・断り方トレーニング
到達目標					7	受信力トレーニング 応用①	傾聴・共感トレーニング
1．受信力、2．発信力、3．対人力、4．メンタル力の4つの項目において、受講前と受講後と比較し、各受講生が確実に能力を向上させる。なお、本授業の到達目標は、「分かる」（知識習得）ではなく、『出来る』（能力）であり、日常において如何に実践できるかが鍵となる。					8	受信力トレーニング 応用②	アサーショントレーニング
					9	メンタル強化 心トレ①	自己対話の認識と文章カトレーニング
準備学習					10	メンタル強化 心トレ②	原因理解トレーニング
毎回授業で扱うテーマを日常生活において実践トレーニングする。					11	メンタル強化 心トレ③	身体コントロール
					12	メンタル強化 心トレ④	頭コントロール
成績評価					13	メンタル強化 心トレ⑤	言葉コントロール
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法					14	総まとめ及び試験（レポート）について	全授業の総まとめと試験（レポート）についての説明
					15	試験	総復習・試験
					16	試験（レポート）返却・解説	試験の返却と試験内容の解説
使用テキスト	参考図書『新 1 on 1 リアルコミュニケーション入門』 【著】西田弘次 実践コミュニケーション研究所						

令和7年度 シラバス				
科目名	リハビリテーション実践			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	2 学期	2	対面
担当教員	長澤康弘			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
リハビリテーションを実践するうえで代表的な検査測定，治療について学ぶ。授業では知識面の提供後に実技を練習する。鍼灸治療の効果を高める一助にしていきたい。				
到達目標				
・疾患に応じて検査測定，治療プログラムを選択できるようになる。 ・検査測定を正確に記録し，解釈できるようになる。 ・情報収集，問診，検査結果に基づいて目標，治療プログラムを立案できるようになる。 ・実技で経験した評価，治療内容を振り返って実践できるようになると望ましい。				
準備学習				
授業内容に合わせて使用テキストを確認しておくこと。				
成績評価				
定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	公益社団法人東洋療法学校協会編集，新版リハビリテーション医学第1版を使用する。 配布資料を使用することもある。 実技ではメジャー(1,2回目)，打腿器(4回目)，ゴニオメーター(6,7回目)が必要になる。			

授業計画		
回数	単元	内容
1	情報収集，問診，形態計測，疼痛検査	リハビリテーションにあたってのカルテ・検査所見からの情報収集，問診方法を説明する。形態計測，疼痛評価についても説明する。
2	整形外科的テスト①	整形外科的テストの感度，特異度について説明する。下肢疾患に代表するテストについても実技を含めて説明する。
3	整形外科的テスト②	上肢，体幹疾患に代表するテストについて実技を含めて説明する。
4	神経学的テスト①	病態を整理しながら神経学的テストを実技を含めて説明する。
5	神経学的テスト②	病態を整理しながら認知機能，高次脳機能検査について説明する。
6	関節可動域測定①（実技）	関節可動域測定の目的，留意点を説明する。下肢の測定方法を説明する。
7	関節可動域測定②（実技）	上肢体幹の測定方法を説明する
8	ストレッチ，モビライゼーション	関節可動域制限を引き起こす筋肉へのストレッチ，モビライゼーションについて説明する。
9	関節可動域練習	関節可動域制限に対しての可動域練習を関節副運動と合わせて説明する。
10	筋力測定①（実技）	筋力検査の目的や方法について説明する。下肢の徒手筋力検査法を説明する。
11	筋力測定②（実技）	上肢体幹の徒手筋力検査法を説明する。
12	基本動作，ADL練習	基本動作，ADL練習を補助具の使用を含めて説明する。
13	定期試験	1回目から12回目までの定期試験を実施する。
14	定期試験解説	定期試験の解説を行う。
15	姿勢分析	姿勢分析の目的や方法を実技を含めて説明する。バランス検査についても合わせて説明する。
16	動作分析	動作分析の目的や方法を説明する。歩行速度などのパフォーマンステストについても合わせて説明する

令和7年度 シラバス				
科目名	情報処理			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	2	対面
担当教員	新田 時也			
実務経験	-			
授業概要				
収集した多量の情報に、コンピューター等を使って分類・整理・選択・演算等の処理を施して、目的に応じた情報を得られるように加工する技術を身に着けます。				
到達目標				
①情報を正しく利用する力を身に着けること。②ワード、エクセルが活用できること。③Teams（チームス）を使いこなせること。④授業の課題をメール等で送受信できること。⑤PowerPoint（パワーポイント）を活用して、プレゼンテーションができること。				
準備学習				
第1回目はガイダンスです。ガイダンス時に、2回目以降からの事前学習の内容を伝えます。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	特に指定しませんが、授業中に参考図書を紹介しますので、自分自身の力に合うものを各自で選定してください。各回、資料を配布します。ただし、『情報倫理ハンドブック 改訂版』（noa）は、毎回、持参してください。			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	情報処理の授業の流れを説明します。
2	情報倫理	情報を正しく利用する心構えを話します。
3	ワード①	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
4	ワード②	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
5	ワード③	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
6	ワード④	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
7	エクセル①	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
8	エクセル②	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
9	エクセル③	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
10	エクセル④	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
11	Teams①	Teamsを使いこなす技術を身に着けます。
12	Teams②	Teamsを使いこなす技術を身に着けます。
13	メール①	メールで文章や数値データの表、画像等を送受信する技術を身に着けます。
14	メール②	メールで文章や数値データの表、画像等を送受信する技術を身に着けます。
15	PowerPoint①	PowerPointを活用して、プレゼンができる技術を身に着けます。
16	PowerPoint②	PowerPointを活用して、プレゼンができる技術を身に着けます。

令和7年度 シラバス				
科目名	情報処理			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	1学期	1	対面
担当教員	新田 時也			
実務経験	-			
授業概要				
収集した多量の情報に、コンピューター等を使って分類・整理・選択・演算等の処理を施して、目的に応じた情報を得られるように加工する技術を身に着けます。				
到達目標				
①情報を正しく利用する力を身に着けること。②ワード、エクセルが活用できること。③Teams（チームス）を使いこなせること。④授業の課題をメール等で送受信できること。⑤PowerPoint（パワーポイント）を活用して、プレゼンテーションができること。				
準備学習				
第1回目はガイダンスです。ガイダンス時に、2回目以降からの事前学習の内容を伝えます。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	特に指定しませんが、授業中に参考図書を紹介しますので、自分自身の力に合うものを各自で選定してください。各回、資料を配布します。ただし、『情報倫理ハンドブック 改訂版』（noa）は、毎回、持参してください。			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	情報処理の授業の流れを説明します。
2	情報倫理	情報を正しく利用する心構えを話します。
3	ワード①	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
4	ワード②	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
5	ワード③	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
6	ワード④	ワードで文章を作る技術を身に着けます。
7	エクセル①	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
8	エクセル②	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
9	エクセル③	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
10	エクセル④	エクセルで数値処理する技術を身に着けます。
11	Teams①	Teamsを使いこなす技術を身に着けます。
12	Teams②	Teamsを使いこなす技術を身に着けます。
13	メール①	メールで文章や数値データの表、画像等を送受信する技術を身に着けます。
14	メール②	メールで文章や数値データの表、画像等を送受信する技術を身に着けます。
15	PowerPoint①	PowerPointを活用して、プレゼンができる技術を身に着けます。
16	PowerPoint②	PowerPointを活用して、プレゼンができる技術を身に着けます。

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名	解剖学Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	5	対面＋オンデマンド
担当教員	白崎 史剛			
実務経験	-			

授業概要
この授業では、まず人体の骨の部位を一つ一つ覚えていき、次にそれをもとに筋肉の起始・停止・支配神経・作用という項目を覚えていくことで、一つ一つの筋肉がどのような動きをするのかを理解していく。1学期は骨について1回、2学期は筋肉について毎回、小テストを行う。
到達目標
頭の中に人体の構造とくに骨と筋肉のイメージができ、どのように筋肉が作用するかを理解して、西洋医学の面と経絡経穴概論の東洋医学の面の両方から考える力を身につけるようになる。
準備学習
今回の授業で行う範囲のレジメを読んでくると同時に、その図解を頭の中でイメージしてくること。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	教科書「解剖学（東洋療法学校協会編 医歯薬出版）」 参考書「プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）」など
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	第1章 人体の構成	細胞の構造
2	第1章 人体の構成	物質の移動と細胞小器官
3	第1章 人体の構成	遺伝子 組織と器官
4	第1章 人体の構成	結合組織 運動の仕組み
5	10-Ⅰ 総論	運動の作用
6	10-Ⅰ 総論	骨格系総論
7	10-Ⅱ 全身の骨格	脊柱
8	10-Ⅱ 全身の骨格	胸郭と上肢の骨格
9	10-Ⅱ 全身の骨格	上肢の骨格と関節
10	10-Ⅱ 全身の骨格	骨盤
11	10-Ⅱ 全身の骨格	下肢の骨格と関節
12	10-Ⅱ 全身の骨格	頭蓋骨
13	10-Ⅱ 全身の骨格	頭蓋骨の腔所
14	10-Ⅱ 全身の骨格	筋系総論
15	1学期期末試験	まとめ・期末試験
16	10-Ⅲ 体幹	浅胸筋
17	10-Ⅳ 上肢	浅背筋と上肢帯
18	10-Ⅳ 上肢	上肢帯と上肢の屈筋群
19	10-Ⅳ 上肢	上肢の屈筋群と伸筋群
20	10-Ⅳ 上肢	前腕の屈筋群

令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		解剖学 I
21	10-Ⅳ 上肢	前腕の屈筋群
22	10-Ⅳ 上肢	前腕の伸筋群
23	10-Ⅳ 上肢	前腕の伸筋群
24	10-Ⅳ 上肢	手の筋と上肢の脈管・リンパ・神経
25	10-Ⅴ 下肢	内寛骨筋と外寛骨筋
26	10-Ⅴ 下肢	外寛骨筋
27	10-Ⅴ 下肢	大腿前面の伸筋群
28	10-Ⅴ 下肢	大腿後面の屈筋群
29	10-Ⅴ 下肢	大腿内面の内転筋群
30	10-Ⅴ 下肢	下腿前面の伸筋群
31	2 学期期末試験	まとめ・期末試験
32	10-Ⅴ 下肢	下腿外側の腓骨筋群と下腿後面の屈筋群
33	10-Ⅴ 下肢	下腿後面の屈筋群
34	10-Ⅴ 下肢	足の筋
35	学年末試験	まとめ・期末試験
36	期末試験解説	試験解説 下肢の脈管と神経
37	オンデマンド授業①	深胸筋と腹筋群
38	オンデマンド授業②	深背筋
39	オンデマンド授業③	表情筋と咀嚼筋
40	オンデマンド授業④	斜角筋群と頭頸部の脈管と神経

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	解剖学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期,2学期	4	対面
担当教員	阿江邦公			
実務経験	-			
授業概要				
この授業では、はじめに人体の基本的な構成を講義で学んだ後、神経系、感覚器系の項目を学習する。神経系や感覚器系の解剖学の基礎を理解し、西洋医学と東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける。				
到達目標				
人体の構造を理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目標とする。具体的には「神経」、「感覚器」について説明できるようになる。				
準備学習				
教科書などにより講義内容を事前に把握（予習）しておく。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	『解剖学 第2版』（公益社団法人東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社発行）を使用する			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	第1章 人体の構成	神経組織
2	第8章 神経系	中枢神経（大脳）
3	第8章 神経系	中枢神経（間脳、脳幹）
4	第8章 神経系	中枢神経（小脳、脊髄）
5	第8章 神経系	中枢神経（脳室、髄膜、髄液）
6	第8章 神経系	中枢神経（脳の血管）
7	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
8	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
9	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
10	第8章 神経系	末梢神経（脳神経）
11	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
12	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
13	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
14	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
15	定期試験	まとめ・期末試験
16	定期試験返却、復習	試験解説
17	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
18	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
19	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）
20	第8章 神経系	末梢神経（脊髄神経）

令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名	生理学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	2学期,3学期	7	対面＋オンデマンド
担当教員	山上正典			
実務経験	-			

授業概要
応用科目である病理学、臨床医学各論を学ぶ前に、人体の生理作用がどのように働くことで日々の生命活動が成り立っているかを学ぶ。授業は作成したパワーポイントのスライドを元に、プリントあるいはPDFファイルに重要なワードを書き込み、また小テストなどで理解度を確認しつつ学習していく。
到達目標
現代医学の応用科目を学ぶ前に必要となる生理学の重要なポイントを理解し、4択問題を解けるようになることを目指す。理想としては他人に説明できるレベルを目指したい。
準備学習
あらかじめUMUに授業資料をPDFで閲覧できるようにしておくので、それを事前に目を通しどのような内容をやるのかを確認しておく。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	生理学 東洋療法学校協会編
--------	---------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス・1章基礎①	授業の意義・生理学を学ぶにあたっての基礎
2	1章基礎②・2章循環①	循環器系の仕組み
3	2章循環②	循環器系の仕組み
4	2章循環③	循環器系の仕組み
5	2章循環④	循環器系の仕組み
6	3章呼吸①	呼吸器系の仕組み
7	3章呼吸②	呼吸器系の仕組み
8	復習	1・2・3章の復習
9	4章消化器系①	消化器系の仕組み
10	4章消化器系②	消化器系の仕組み
11	4章消化器系③	消化器系の仕組み
12	5章代謝①	代謝の仕組み
13	5章代謝②	代謝の仕組み
14	総復習	1学期の総復習
15	定期試験・総復習	まとめ・期末試験
16	試験解説・体温①	体温調節の仕組み
17	体温②・7章排泄①	泌尿器系の仕組み
18	7章排泄②	泌尿器系の仕組み
19	8章内分泌①	内分泌系の仕組み
20	8章内分泌②	内分泌系の仕組み

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		生理学
21	8章内分泌③	内分泌系の仕組み
22	9章生殖老化①	生殖・成長老化の仕組み
23	9章生殖老化②	生殖・成長老化の仕組み
24	総復習・試験	まとめ・期末試験
25	試験解説・10章神経①	神経系の仕組み
26	10章神経②	神経系の仕組み
27	10章神経③	神経系の仕組み
28	10章神経④	神経系の仕組み
29	11章筋	筋の仕組み
30	12章運動①	運動の仕組み
31	12章運動②	運動の仕組み
32	総復習・試験	まとめ・期末試験
33	試験解説・13章感覚①	感覚器系の仕組み
34	13章感覚②	感覚器系の仕組み
35	13章感覚③	感覚器系の仕組み
36	14章免疫	免疫の仕組み
37	総復習・試験	まとめ・期末試験
38	試験解説・総復習	試験解説
39	オンデマンド・総復習	全体の総復習・問題演習
40	オンデマンド・総復習	全体の総復習・問題演習問題演習

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	運動学				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	2年	1学期	2	対面	1	運動のしくみ①	筋の構造と収縮
担当教員	森田 義之				2	運動のしくみ②	運動の司令塔
実務経験	-				3	運動のしくみ③	運動の大きさ
					4	運動のしくみ④	運動軸
					5	運動のしくみ⑤	運動自由度
					6	運動のしくみ⑥	運動方向
					7	運動のしくみ⑦	関節の構造と種類
					8	徒手筋力検査①	徒手筋力検査とは
					9	徒手筋力検査②	検査の目的
					10	徒手筋力検査③	検査の実際①
					11	徒手筋力検査④	検査の実際②
					12	徒手筋力検査⑤	検査の実際③
					13	歩行分析①	正常動作
					14	歩行分析①	歩行周期
					15	歩行分析①	歩行周期
					16	歩行分析①	歩行周期
					17	歩行分析①	異常動作
					18	総復習	総復習
					19	定期試験	まとめ・期末試験
					20	フィードバック	試験解説
授業概要							
鍼灸師が必要な運動学を学び、臨床に応用できる知識を身に付ける。							
到達目標							
国家試験に出題される運動学領域を理解し、臨床で意味のある知識を習得する。							
準備学習							
1年次に学習した解剖学で勉強した体幹、四肢の筋肉の起始停止、作用を徹底する							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）							
使用テキスト	こちらが用意した資料を使う						

令和7年度 シラバス				
科目名	病理学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	学期,2学期,3学期	5	オンデマンド
担当教員	西川 彰			
実務経験	-			
授業概要				
病理学とは、病気に陥った身体に生じる変化からその原因を究明する学問である。この授業では、疾病の基本（概要・分類・症候・経過など）や病因を学ぶことから始め、その後は、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍、免疫異常・アレルギー、先天性異常などの疾病の成り立ちについて順次学習していく。				
到達目標				
・疾病に関する基本的知識を理解することができる。 ・代表的な疾病の成り立ちを体系的に理解することができる。 ・将来の資格試験合格に向けた知識も身につけることができる。				
準備学習				
授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「病理学ノート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。				
提出課題による評価				
使用テキスト	東洋療法学校協会 編 『病理学概論 第2版』（医歯薬出版、2004年）			

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス、病理学とは	医療における病理学業務の内容
2	疾病の基本	疾病の概念、疾病の分類、疾病の症候と経過
3	病因①	疾病の一般、内因(1)：素因と体質
4	病因②	内因(2)：遺伝、内分泌
5	病因③	内因(3)：免疫、心因性疾患
6	病因④	外因(1)：栄養素の不足と過剰
7	病因⑤	外因(2)：物理的病因
8	病因⑥	外因(3)：化学的病因
9	病因⑦	外因(4)：生物学的病因
10	病因⑧	外因(5)：小児疾患
11	循環障害①	ヒトの循環系
12	循環障害②	充血・うっ血、貧血・虚血
13	循環障害③	出血
14	循環障害④	血栓症、塞栓症、梗塞
15	循環障害⑤	水腫・浮腫・脱水症、ショック
16	退行性病変①	萎縮、変性(1)：概念
17	退行性病変②	変性(2)：分類
18	退行性病変③	変性(3)：加齢と老化、生活習慣病
19	退行性病変④	壊死と死
20	進行性病変①	肥大と増殖、再生

令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		病理学
21	進行性病変②	化生, 移植
22	進行性病変③	創傷治癒・組織内異物の処理
23	炎症①	炎症の一般(1): 循環障害と滲出
24	炎症②	炎症の一般(2): 組織の増殖, 炎症の経過
25	炎症③	炎症の分類(1): 変質性炎, 滲出性炎
26	炎症④	炎症の分類(2): 増殖性炎, 特異性炎
27	腫瘍①	腫瘍の一般(1): 腫瘍とは, 腫瘍の形態と構造
28	腫瘍②	腫瘍の一般(2): 腫瘍細胞の特色, 腫瘍の組織学
29	腫瘍③	腫瘍の一般(3): 腫瘍の分類
30	腫瘍④	腫瘍の一般(4): 腫瘍の発生の諸段階
31	腫瘍⑤	腫瘍の一般(5): 腫瘍の生体に及ぼす影響, 腫瘍の発生原因(外因)
32	腫瘍⑥	腫瘍の一般(6): 腫瘍の発生原因(内因), 治療と再発
33	腫瘍⑦	良性腫瘍, 悪性腫瘍
34	免疫異常・アレルギー①	液性免疫と細胞性免疫, アレルギー
35	免疫異常・アレルギー②	免疫不全
36	免疫異常・アレルギー③	自己免疫異常
37	先天性異常①	先天性異常総論(1): 代謝異常
38	先天性異常②	先天性異常総論(2): 奇形
39	先天性異常③	遺伝性疾患, 染色体異常
40	まとめ	総復習

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床医学総論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	学期,2学期,3学期	5	対面+オンデマンド
担当教員	菅原 悠衣			
実務経験	-			
授業概要				
安全かつ効果的にチーム医療を実践するには、すべての医療職種が適切な診察法を理解し、主たる証候に精通しておくことが必須である。鍼灸師においても、医療面接から始まる診察の概要を理解し、実践できることが必要である。 本科目では、西洋医学的な病態把握・診察法について学習する。				
到達目標				
鍼灸臨床現場での病態を判別するための知識を身につけることを目的とする。 「診察」、「生命徴候」、「身体の病的特徴」、「神経系の病的特徴」、「運動機能の病的特徴」、「検査法」について理解し説明できるようになる。				
準備学習				
予習：教科書などにより講義内容を理解しておく。 復習：配布資料、教科書を参考に復習を行う。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	『臨床医学総論 第2版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社）を使用する。			

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	科目概要の説明、1年の流れ
2	第1章 診察の概要	診察の意義、心得、関連用語の理解
3	第2章 診察の方法	医療面接、視診、触診
4	第2章 診察の方法	打診、聴診
5	第3章 生命徴候の診察	体温、脈拍
6	第3章 生命徴候の診察	血圧、呼吸
7	第4章 全身の診察	皮膚、精神状態
8	第4章 全身の診察	言語、進退脛側
9	第4章 全身の診察	体格、栄養状態
10	第4章 全身の診察	姿勢・体位、歩行
11	第4章 全身の診察	皮膚
12	第4章 全身の診察	浮腫、爪の状態、リンパ節
13	第5章 局所の診察	頭部、顔面、眼、鼻
14	第5章 局所の診察	耳、口腔、味覚、頸部
15	定期試験	まとめ・1学期定期試験
16	定期試験解説	1学期定期試験解説
17	オンデマンド	第11章 治療学
18	オンデマンド	第11章 治療学
19	オンデマンド	第12章 臨床心理
20	オンデマンド	第12章 臨床心理

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		臨床医学総論
21	第5章 局所の診察	胸部、乳房、肺・胸膜
22	第5章 局所の診察	心臓、腹部
23	第5章 局所の診察	背部、四肢
24	第6章 神経系の診察	感覚検査法
25	第6章 神経系の診察	反射検査
26	第6章 神経系の診察	反射検査
27	第6章 神経系の診察	脳神経系の検査
28	第6章 神経系の診察	脳神経系の検査
29	第7章 運動機能検査	運動麻痺、筋肉の異常
30	第7章 運動機能検査	不随意運動、協調運動運動、起立と歩行
31	定期試験	まとめ・2学期定期試験
32	定期試験解説	2学期定期試験解説
33	第7章 運動機能検査	徒手検査
34	第7章 運動機能検査	徒手検査
35	第8章 その他の診察	その他の診察、一般検査
36	第9章 臨床検査	一般検査
37	第9章 臨床検査	血液生化学検査
38	第9章 臨床検査	画像診断
39	定期試験	まとめ・学期末試験
40	定期試験解説	学期末試験解説

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	臨床医学各論				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	2年	1学期,2学期,3学期	10	対面＋オンデマンド	1	整形外科疾患①	総論・関節疾患①
担当教員	西田 睦				2	整形外科疾患②	総論・関節疾患②
実務経験	-				3	整形外科疾患③	総論・関節疾患③
授業概要					4	整形外科疾患④	総論・関節疾患④
「臨床医学各論」は鍼灸師に必要とされる疾患の診断および特徴・症状・検査・治療等に関する基礎的な知識について学ぶ。					5	整形外科疾患⑤	骨・筋腱疾患①
到達目標					6	整形外科疾患⑥	骨・筋腱疾患②
疾患の特性を理解して鍼灸施術の不適応を正しく判断できるとともに、国家試験合格水準の知識を身に着けることを目標とする。					7	整形外科疾患⑦	形態異常
準備学習					8	整形外科疾患⑧	脊椎疾患①
教科書とプリントを用いた授業の復習を中心とし、参考書やインターネットなども用いて国家試験の過去問等4択問題に取り組む。					9	整形外科疾患⑨	脊椎疾患②
成績評価					10	整形外科疾患⑩	脊椎疾患③
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）					11	整形外科疾患⑪	脊椎疾患④
使用テキスト	臨床医学各論＜第2版＞ 医歯薬出版				12	整形外科疾患⑫	脊髄損傷
					13	整形外科疾患⑬	外傷
					14	整形外科疾患⑭	スポーツ障害
					15	整形外科疾患⑮	その他整形外科①
					16	整形外科疾患⑯	その他整形外科②
					17	神経疾患①	脳血管疾患①
					18	神経疾患②	脳血管疾患②
					19	神経疾患③	感染症
					20	神経疾患④	脳脊髄腫瘍①

令和6年度 シラバス

科目名		臨床医学各論
21	神経疾患⑤	脳脊髄腫瘍②
22	神経疾患⑥	変性症①
23	神経疾患⑦	変性症②
24	神経疾患⑧	認知症
25	神経疾患⑨	筋疾患
26	神経疾患⑩	運動神経障害
27	神経疾患⑪	末梢神経障害
28	神経疾患⑫	頭痛
29	定期試験	まとめ・期末試験
30	試験解説	試験解説
31	感染症①	細菌感染症
32	感染症②	ウイルス感染症
33	感染症③	性感染症
34	消化器疾患①	口腔・食道疾患
35	消化器疾患②	胃・十二指腸疾患
36	消化器疾患③	腸疾患①
37	消化器疾患④	腸疾患②
38	消化器疾患⑤	腹膜疾患
39	肝胆膵疾患①	肝臓疾患
40	肝胆膵疾患②	胆道疾患

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

授業計画		
回数	単元	内容
41	肝胆膵疾患③	膵臓疾患
42	呼吸器疾患①	感染性呼吸器疾患
43	呼吸器疾患②	閉塞性呼吸器疾患
44	呼吸器疾患③	拘束性呼吸器疾患
45	呼吸器疾患④	その他呼吸器疾患
46	腎・尿器疾患①	腎不全
47	腎・尿器疾患②	感染症
48	腎・尿器疾患③	結石症
49	内分泌疾患①	下垂体疾患
50	内分泌疾患②	甲状腺疾患
51	内分泌疾患③	副腎疾患
52	代謝・栄養疾患①	糖代謝異常
53	代謝・栄養疾患②	脂質代謝異常
54	代謝・栄養疾患③	その他代謝異常
55	循環器疾患①	心臓疾患①
56	循環器疾患②	心臓疾患②
57	循環器疾患③	心臓疾患③
58	循環器疾患④	冠動脈疾患
59	循環器疾患⑤	動脈疾患
60	循環器疾患⑥	血圧異常

科目名		臨床医学各論
61	定期試験	まとめ・期末試験
62	試験解説	試験解説
63	血液・造血器疾患①	赤血球疾患
64	血液・造血器疾患②	白血球疾患
65	血液・造血器疾患③	出血性素因
66	リウマチ・膠原病①	リウマチ性疾患
67	リウマチ・膠原病②	膠原病①
68	リウマチ・膠原病③	膠原病②
69	その他の領域①	小児科・一般外科
70	その他の領域②	麻酔科
71	その他の領域③	婦人科疾患
72	その他の領域④	皮膚科疾患
73	その他の領域⑤	眼科疾患
74	その他の領域⑥	耳鼻科疾患
75	その他の領域⑦	精神科疾患
76	その他の領域⑧	加齢に伴う病態
77	定期試験	まとめ・期末試験
78	試験解説	定期試験
79	国家試験過去問演習①	国家試験における出題形式を紹介
80	国家試験過去問演習②	国家試験における出題形式を紹介

令和7年度 シラバス				
科目名	リハビリテーション医学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	学期,2学期,3学期	5	講義
担当教員	長澤康弘			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
リハビリテーション概念（医療，分野など）を理解して，患者の心身機能，活動，社会参加などを包括的に捉えられるように学ぶ。リハビリテーションに必要な解剖学，生理学的知識や疾患知識を整理するとともに，具体的なリハビリテーションの内容を説明する。				
到達目標				
・リハビリテーションに必要な解剖学，生理学的知識や疾患像を理解する。 ・疾患に応じたリハビリテーションの内容を理解する。 ・資格取得後，本講義内容を振り返ってリハビリテーションが提供できるようになると望ましい。				
準備学習				
授業内容に合わせて使用テキストを確認しておくこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	公益社団法人東洋療法学校協会編集，新版リハビリテーション医学第1版を使用する。 配布資料を使用することもある。			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	骨	骨の構造，機能についての知識整理，骨折治療について説明する。
2	関節，靱帯	関節，靱帯についての知識整理，リハビリテーションに関わる内容について説明する。
3	筋肉，腱	筋肉，腱についての知識整理，リハビリテーションに関わる内容について説明する。
4	呼吸器，循環器	呼吸器，循環器系についての知識整理，リハビリテーションに関わる内容について説明する。
5	リハビリテーション医療・分野，チーム医療	リハビリテーション医療，分野，チーム医療について説明する。
6	リハビリテーション診療の流れ 生活機能分類	リハビリテーション診療の流れや生活機能分類について説明する。
7	理学療法 運動療法	リハビリテーション専門職における理学療法について説明する。運動療法の基本的な考え方について説明する。
8	物理療法①	物理療法の基本的な考え方，各種物理療法について説明する。
9	物理療法②	各種物理療法について説明する。
10	作業療法，言語聴覚療法	リハビリテーション専門職における作業療法，言語聴覚療法について説明する。
11	補装具，自助具，福祉用具	リハビリテーションに必要な補装具，自助具および在宅生活を安全に送るための福祉用具について説明する。
12	内部障害のリハビリテーション① 切断のリハビリテーション	糖尿病，切断に対するリハビリテーションについて説明する。
13	内部障害のリハビリテーション②	呼吸器，循環器疾患に対するリハビリテーションについて説明する。
14	がんのリハビリテーション	がんの病態を整理し，リハビリテーションについて説明する。
15	定期試験	1回目から14回目までの定期試験を実施する。
16	定期試験解説	定期試験の解説を行う。
17	スポーツ傷害のリハビリテーション	スポーツ傷害の発生要因，各疾患のリハビリテーションについて説明する。
18	下肢運動器疾患のリハビリテーション	下肢運動器疾患について整理し，各疾患のリハビリテーションについて説明する。
19	上肢運動器疾患のリハビリテーション	上肢運動器疾患について整理し，各疾患のリハビリテーションについて説明する。
20	頸部体幹運動器疾患のリハビリテーション	頸部体幹運動器疾患について整理し，各疾患のリハビリテーションについて説明する。

令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		リハビリテーション医学
21	神経疾患のリハビリテーション①	脳卒中の病態を整理し、リハビリテーションについて説明する。
22	神経疾患のリハビリテーション②	代表的な神経筋疾患を整理し、リハビリテーションについて説明する。
23	脊髄損傷のリハビリテーション①	脊髄損傷の病態を整理し、頸髄損傷のリハビリテーションについて説明する。
24	脊髄損傷のリハビリテーション②	胸髄、腰髄損傷のリハビリテーションについて説明する。
25	変形性膝関節症、関節リウマチのリハビリテーション	関節疾患の代表的な変形性関節症、関節リウマチを整理し、リハビリテーションについて説明する。
26	姿勢制御	姿勢制御の知識整理、バランス能力向上に必要なリハビリテーションについて説明する。
27	歩行	歩行周期を整理し、異常歩行、歩行分析の方法について説明する。
28	運動学習	運動療法、動作練習を実施するにあたって必要な運動学習の理論について説明する。
29	定期試験	17回目から28回目までの定期試験を実施する。
30	定期試験解説	定期試験の解説を行う。
31	高齢者のリハビリテーション	高齢者の代表的な疾患、高齢者の特性に応じたリハビリテーションについて説明する。
32	小児疾患のリハビリテーション	小児疾患の代表的な疾患、こどもの特性に応じたリハビリテーションについて説明する。
33	1学期内容の総括①	1学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。
34	1学期内容の総括②	1学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。
35	1学期内容の総括③	1学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。
36	1学期内容の総括④	1学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。
37	2学期内容の総括①	2学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。
38	2学期内容の総括②	2学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。
39	2学期内容の総括③	2学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。
40	2学期内容の総括④	2学期の内容と国家試験対策を交えて講義をする。

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	医療概論・社会保障制度				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	3年	1～2学期	2	対面＋オンデマンド	1	医学史(1)	オンデマンド(古代以前～平安時代)
担当教員	久住喜春				2	医学史(2)	オンデマンド（南北朝時代～江戸時代）
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。				3	医学史(3)	オンデマンド（明治時代～近代）
授業概要					4	現代医学・健康問題について	オンデマンド（西洋・東洋医学の課題）
随時プリントを配布し、パワーポイントを使って座学を行う					5	医療従事者、医療施設、国民医療費	近年の医療従事者数、医療法に定める医療施設、国民医療費とは
					6	社会保障制度(1)	セーフティーネット
					7	社会保障制度(2)	労災保険他
到達目標					8	医療保険の仕組み	医療保険の種類
医療ば歴史（日本医学史）、医療制度、社会保障制度、医療従事者の倫理、現代社会において西洋医学と東洋医学が提示する問題について理解できるようになる。					9	療養費について	現代医療の中における療養費制度について
					10	生活保護、高齢者医療制度	生活保護の種類、高齢者医療制度について
					11	公費医療、介護保険制度	公費医療の種類、介護保険の概要
準備学習					12	機能訓練指導員・ケアマネについて	鍼灸師としての機能訓練指導員について、ケアマネの概要
事後学習：配布資料を基に復習をしておくこと					13	医療倫理(1)	ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言他
					14	医療従事者の倫理	パターナリズム、IC,IA他
					15	期末試験	まとめ・筆記試験
成績評価					16	試験解説	試験解説
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）							
使用テキスト	適宜プリントを配布する						

令和7年度 シラバス				
科目名	関係法規			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	2	講義
担当教員	久住喜春			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			
授業概要				
「関係法規」（東洋療法学校協会編、医歯薬出版発行）を使用し、座学講義を行う。随時プリントを配布し、適宜参考資料を提供する。途中でで 4 コマ分オンデマンド授業を行う。終盤の 4 コマは開業に関する創業計画書や開業届の作成及び提出をする。				
到達目標				
「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」について我々の身分法となっている法の中身（免許・業務・広告・罰則等）の知識を身につける。また医療関係法規（医師法、医療法、薬機法）や社会福祉関係法規の目的や内容が説明できるようになる。				
準備学習				
事後学習：配布プリントと教科書をもとに復習を行う。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法				
使用テキスト	『関係法規』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用			

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス・法とは	法の種類、国内法の優先順位
2	あはき法 1	免許について
3	あはき法2	登録事務（開業届、免許書き換え申請等）
4	あはき法3	業務について
5	あはき法4	広告制限
6	オンデマンド	看板のいろいろ
7	オンデマンド	罰則等
8	オンデマンド	その他の関係法規（医療法他）
9	オンデマンド	その他の関係法規（生活保護法、障害者福祉他）
10	その他の関係法規	個人情報保護法等
11	総まとめ	総復習
12	試験	期末試験
13	提出課題(1)	1 0 年後の夢について
14	提出課題(2)	創業計画書作成
15	提出課題(3)	創業計画書作成
16	提出課題(4)	開業届、平面図作成

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	公衆衛生学Ⅰ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	1年	0	2	講義	1	導入	公衆衛生学への招待
担当教員	響谷 学				2	感染症とその対策 ①	感染症と微生物
実務経験	-				3	感染症とその対策 ②	感染症の成立と予防
授業概要					4	感染症とその対策 ③	免疫と臨床での感染予防
公衆衛生学と医学は人々の健康を衛る学問である。臨床医学が目の中の患者さんを対象とするのに対し、公衆衛生学は公衆を対象とする。当科目では、公衆衛生学基本5領域の内、疫学、生物統計学、環境保健学を中心に扱う。特に実践的内容として消毒法についても詳説する。					5	消毒法 ①	消毒法基礎
到達目標					6	消毒法 ②	消毒の実際と感染制御
・病原体と宿主、感染経路について理解し、鍼灸師にとって必須である消毒法について知識を習得する ・研究論文について理解するために、生物統計学、疫学の基本を身につける ・疫学、生物統計学の指標である割合、比、率などについて理解し、保健統計の意味が理解できる					7	小括	【まとめと復習】感染症、消毒法
準備学習					8	疫学 ①	疫学の概念と因果関係
講義前：講義で扱う内容について教科書を一読しておくこと 講義後：課題に取り組み講義内容の復習と自ら考えることの実践を行う					9	疫学 ②	疫学指標
成績評価					10	疫学 ③	研究デザイン
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法					11	疫学 ④	相対危険、寄与危険、オッズ比
使用テキスト	教科書：「東洋療法学校協会編教科書 衛生学・公衆衛生学 第2版」 （東洋療法学校協会編、医歯薬出版） 参考書：「公衆衛生がみえる 2024-2025」（医療情報科学研究所編、メディックメディア）				12	保健統計 ①	生物統計学入門
					13	保健統計 ②	疫学・生物統計学の実践 保健統計の指標 ①
					14	保健統計 ③	疫学・生物統計学の実践 保健統計の指標 ②
					15	小括	【まとめと復習】疫学、生物統計学
					16	総括	【まとめと復習】感染症、消毒法、疫学、生物統計学

令和7年度 シラバス				
科目名	公衆衛生学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1～2学期	3	講義
担当教員	反町 拓			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
・臨床家にとって、患者様の治療に携わる臨床活動に加え、病気の予防や健康増進の知識と技術およびこれらが展開される保健福祉の法制・倫理の基本的知識を習得していることが必要です。この授業では疾病予防と健康の保持・増進に関わる社会医学として、「衛生学・公衆衛生学」を学びます。				
到達目標				
・衛生学・公衆衛生学の意義を説明できる。 ・健康と、健康にかかわる要素（ライフスタイル・環境・メンタルヘルス）について説明できる。 ・各分野の保健制度（産業・学校・母子・成人・高齢者）について説明できる。				
準備学習				
・本シラバスを参考に各回のテーマの特に重要な部分について、教本その他文献で補備すること。 ・各回で扱ったテーマ、課題について、ポイントをノートなどにまとめ、知識を整理しておくこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 各授業の対応する課題を採点し、24回分の提出課題の平均点をもって成績評価とする。				
使用テキスト	東洋療法学校協会編 「衛生学・公衆衛生学」第2版 医歯薬出版社			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方（出席・課題・評価について）と概要
2	衛生学・公衆衛生学の意義①	衛生学・公衆衛生学の歴史（1）古代～中世
3	衛生学・公衆衛生学の意義②	衛生学・公衆衛生学の歴史（2）中世～近世
4	衛生学・公衆衛生学の意義③	衛生学・公衆衛生学の歴史（3）近世～近代
5	衛生学・公衆衛生学の意義④	現代の公衆衛生 活動と意義
6	健康について①	健康の概要
7	健康について②	健康管理
8	ライフスタイルと健康①	食品と栄養
9	ライフスタイルと健康②	運動と健康（1）
10	ライフスタイルと健康③	運動と健康（2）
11	環境と健康①	環境のとらえ方 日常生活環境
12	環境と健康②	環境問題 公害対策
13	産業保健①	産業保健の意義 制度の概要
14	産業保健②	労働安全衛生 労働災害・業務上疾病と対策
15	精神保健①	精神保健の意義 メンタルヘルス
16	精神保健②	精神障害について（1）
17	精神保健③	精神障害について（2）
18	母子保健①	母子保健の意義 制度の概要
19	母子保健②	少子化問題と子育て支援
20	学校保健①	学校保健の意義 保健教育

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	経絡経穴概論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	学期,2学期,3学期	5	対面＋オンデマンド
担当教員	白崎 史剛			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			
授業概要				
この授業では鍼灸師として大切になってくる「ツボ」を学ぶ授業であり、どのようなツボの流れがあり、その「ツボ」の由来、位置、機能について理解する。1 学期には流注と骨度について 1 回、2 学期には経穴についての小テストを毎回おこない、どこまで理解が進んでいるかを確認する。				
到達目標				
十四経脈の流注、経穴名とその順番、部位を確実に覚え、その「ツボ」を実技の時に使用できることを目標とし、その経穴についての骨、筋肉、神経、動脈までの理解を目標とする。				
準備学習				
次回の授業で行う範囲のレジメを読んでくと同時に、その図解を頭の中でイメージしてくること。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	教科書「経絡経穴概論（医道の日本社）」と配布プリント 参考書「解剖学（東洋療法学校協会編 医歯薬出版）」 参考書「プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）」など			

授業計画		
回数	単元	内容
1	経穴概要①	経絡と経穴の誕生 臓腑の概要
2	経穴概要②	経絡と経穴の概要
3	経穴概要③	骨度法・取穴時に関する用語
4	経穴概要④	五俞穴と五要穴
5	流注①	督脈・任脈・手の太陰肺経
6	流注②	手の陽明大腸経・足の陽明胃経・足の太陰脾経
7	流注③	手の少陰心経・手の太陽小腸経・足の太陽膀胱経（前半）
8	流注④	足の太陽膀胱経（後半）・足の少陰腎経・手の厥陰心包経
9	流注⑤	手の少陽三焦経・足の少陽胆経・足の厥陰肝経
10	経穴①	督脈（1～14）
11	経穴②	督脈（15～28） 任脈（1～8）
12	経穴③	任脈（9～24） 手の太陰肺経（1～5）
13	経穴④	手の太陰肺経（6～11） 手の陽明大腸経（1～15）
14	経穴⑤	手の陽明大腸経（16～20） 足の陽明胃経（1～15）
15	1 学期期末試験	まとめ・期末試験
16	期末試験解説	試験解説
17	経穴⑥	足の陽明胃経（16～35）
18	経穴⑦	足の陽明胃経（36～45） 足の太陰脾経（1～10）
19	経穴⑧	足の太陰脾経（11～21） 手の少陰心経（1～9）
20	経穴⑨	手の太陽小腸経（1～19）

令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		経絡経穴概論
21	経穴⑩	足の太陽膀胱経（1～20）
22	経穴⑪	足の太陽膀胱経（21～40）
23	経穴⑫	足の太陽膀胱経（41～60）
24	経穴⑬	足の太陽膀胱経（61～67） 足の少陰腎経（1～15）
25	経穴⑭	足の少陰腎経（16～27） 手の厥陰心包経（1～9）
26	経穴⑮	手の少陽三焦経（1～23）
27	経穴⑯	足の少陽胆経（1～21）
28	経穴⑰	足の少陽胆経（22～40）
29	経穴⑱	足の少陽胆経（41～44） 足の厥陰肝経（1～14）
30	奇穴と組み合わせ	奇穴（1～32） 組み合わせ（1～4）
31	2学期期末試験	まとめ・期末試験
32	期末試験解説	試験解説
33	奇経八脈	督脈 任脈 衝脈 帶脈 陰蹻脈 陽蹻脈 陰維脈 陽維脈
34	現代的研究	経穴の現代的研究について
35	学年末試験	まとめ・期末試験
36	期末試験解説	試験解説
37	オンデマンド授業①	経穴と筋肉①
38	オンデマンド授業②	経穴と筋肉②
39	オンデマンド授業③	経穴と神経
40	オンデマンド授業④	経穴と動脈

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	東洋医学概論				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	1年	学期,2学期,3学期	5	対面＋オンデマンド	1	第1章 東洋医学の特徴 第1節 東洋医学の沿革（P2～12）	中国・日本での東洋医学の歴史について
担当教員	寺田 奈生				2	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方（P13～17）	「第3章 東洋医学の思想」（P182～200）を参考に、陰陽学説・五行学説について、東洋医学における人体の捉え方を学ぶ。
実務経験	-				3	第1章 東洋医学の特徴 第3節 東洋医学的治療（P18～28）	東洋医学における治療原則や各種治療法。 「第4節 日本の東洋医学の現状」についても触れる（P29～P36）
授業概要							
何千年と続く中国伝統医学をベースに、1950年代以降、中医学独自の診断治療システムとして整理されてきた「弁証論治」は現代中医学の根幹部分になります。東洋医学概論では現代中医学のベースとなる古代思想から診察・診断にあたる「弁証」までを取り扱います。							
到達目標							
中医学における人体の生理学・病理学を理解し、独特な診察方法から症状を分類・解析する「弁証」が行えるまでを目標とします。							
準備学習							
授業前に該当箇所の教科書部分を読んでおくこと。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）							
使用テキスト	新版 東洋医学概論 （公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社）						
					4	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神（P38～42）	生理活動に関わる基礎物質、精の生理と病理
					5	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神（P42～50）	気の生理と病理
					6	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神（P50～58）	血と津液の生理と病理
					7	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神（P58～62）	生理物質の相互関係
					8	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神（P62～67）	神の生理と病理
					9	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神（P68～73）	陰陽の生理と病理
					10	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P74～77）	蔵象学説、臓腑とは
					11	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P77～84）	肝の生理と病理
					12	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P84～87）	胆の生理と病理、肝と胆の相互関係、肝と関連のある奇恒の腑
					13	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P87～94）	心の生理と病理
					14	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P94～97）	小腸の生理と病理、心と小腸の相互関係、心と関連のある奇恒の腑
					15	1学期まとめ（陰陽五行、気血津液）	まとめ・期末試験
					16	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P97～102）	脾の生理と病理
					17	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P103～106）	胃の生理と病理、脾と胃の相互関係、脾と関連のある奇恒の腑
					18	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P106～113）	肺の生理と病理
					19	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P113～115）	大腸の生理と病理、肺と大腸の相互関係、肺と関連のある奇恒の腑
					20	第2章 生理と病理 第2節 蔵象（P115～123）	腎の生理と病理

令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		東洋医学概論
21	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P123～125)	膀胱の生理と病理、腎と膀胱の相互関係、 腎と関連のある奇恒の腑
22	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P125～130)	三焦について 心・脾・肝の相互関係 (血)
23	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P130～135)	心・肺・脾の相互関係 (気血) 肺・脾・腎の相互関係 (津液・陰)
24	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P135～138)	脾・肝・腎の相互関係 (精血・陰) 肺・脾・肝の相互関係 (気機)
25	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P138～142)	心・脾・腎の相互関係 (陰陽) 六腑の協調運動作用
26	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 (P143～149)	全身の気機
27	第2章 生理と病理 第3節 経絡 (P150～160)	経絡の構成、経絡の病理
28	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 (P161～171)	病因 (外感病因・内傷病因・病理産物とその他)
29	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 (P171～179)	病機
30	第4章 四診 第1節 望診 (P202～209)	神・色・形・態・舌診 (舌質)
31	2学期まとめ (蔵象)	まとめ・期末試験
32	第4章 四診 第1節 望診 第2節 聞診 (P209～218)	舌診 (舌苔) 、声診と気味
33	第4章 四診 第4節 切診 (249～255)	反応、腹診
34	第4章 四診 第4節 切診 (255～259)	脈診 (祖脈)
35	第4章 四診 第4節 切診 (259～265)	脈診 (その他の脈)
36	3学期まとめ (舌診・脈診)	まとめ・学年末試験
37	(オンデマンド) 第4章 四診 第3節 問診 (P219～222)	問診の進め方、主訴
38	(オンデマンド) 第4章 四診 第3節 問診 (P222～234)	基本的問診事項
39	(オンデマンド) 第4章 四診 第3節 問診 (P234～248)	その他の問診事項
40	(オンデマンド) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 (P270～284)	弁証方法 (八綱・気血津液・臓腑・経絡)

[illegible]

令和7年度 シラバス

科目名	基礎はり・きゅう理論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	2	講義
担当教員	久住喜春			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要

医学における基礎研究、臨床研究の発展に伴い、鍼灸の治療効果が解明されつつある。鍼灸の科学的解明により東洋医学と西洋医学の相互理解を深めることが求められている。本科目では、鍼灸師に必要な鍼術・灸術の定義、施術で使用する用具、方式などの鍼灸治療に対する基礎知識について学習する。

到達目標

鍼灸臨床で用いる用具、技術、衛生的処置について理解し説明できるようになる。

準備學習

予習：教科書などにより講義内容を把握しておく 復習：教科書、配布資料を用いて復習を行う。

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

使用テキスト	『基礎はりきゅう理論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社）を使用
--------	----------------------------------

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

授業計画

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	応用はり・きゅう理論				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	3年	通年	7	対面＋オンデマンド	1	オンデマンド①	神経系復習①
担当教員	山上正典				2	オンデマンド②	神経系復習②・反射
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。				3	オンデマンド③	感覚器系
					4	オンデマンド④	内分泌系
					5	鍼灸治効機序①	確認テスト・鍼鎮痛
					6	鍼灸治効機序①	鍼鎮痛
					7	鍼灸治効機序①	循環系と鍼灸
					8	鍼灸治効機序①	循環系と鍼灸
					9	鍼灸治効機序①	運動系と鍼
					10	鍼灸治効機序①	運動系と鍼
					11	鍼灸治効機序①	消化器系と鍼
					12	鍼灸治効機序①	泌尿器系と鍼
					13	鍼灸治効機序①	リラクゼーションと鍼灸
					14	鍼灸治効機序①	生体防御系と鍼灸
					15	定期試験・総復習	
					16	試験解説・総復習	

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床はり・きゅう学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	学期,2学期,3学期	5	講義
担当教員	佐々木皓平			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			
授業概要				
現代医療と鍼灸施術の連携を視野に入れ運動器疾患を中心に各疾患の病態・用いる検査法と特徴を学習し、鍼灸治効理論をもとにした鍼灸施術方法の考え方を養う。				
到達目標				
①主観的と客観的な情報から病態を把握すること。 ②病態把握をした症状に対して解剖や臨床医学の観点から鍼灸治療の適否を見極められること。 ③鍼灸の治効機序に基づき、治療法を選択し鍼灸施術を安全に、そして正確に行えること。 ④医療現場での共通言語を用いたカルテの記入方法を習得すること。				
準備学習				
各自配布資料を基にした自学自習（予習復習）不明な用語は事前に調べておくとう理解が深まりやすい。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	臨床はり・きゅう学の概要についての説明
2	臨床（病態把握）の基本	患者を治療する際に必要な病態把握について
3	上肢の神経とデルマトーム（腱反射）	ベッドサイドで確認が可能な神経学的所見について
4	下肢の神経とデルマトーム（腱反射）	ベッドサイドで確認が可能な神経学的所見について
5	表在反射・病的反射・非恒常的な反射	ベッドサイドで確認が可能な神経学的所見について
6	頸肩腕痛① 頸椎椎間板ヘルニア	臨床で遭遇することの多い頸肩痛を来す疾患について
7	頸肩腕痛② 胸郭出口症候群	臨床で遭遇することの多い頸肩痛を来す疾患について
8	頸肩腕痛③ 肩こり	臨床で遭遇することの多い頸肩痛を来す疾患について
9	頸肩腕痛④ 頸椎椎間関節性疼痛	臨床で遭遇することの多い頸肩痛を来す疾患について
10	頸肩腕痛⑤ 靱帯骨化症	臨床で遭遇することの多い頸肩痛を来す疾患について
11	肩関節痛① インピンジメント症候群	臨床で遭遇することの多い肩痛を来す疾患について
12	肩関節痛② 腱板断裂 上腕二頭筋長頭腱損傷	臨床で遭遇することの多い肩痛を来す疾患について
13	肩関節痛④ 凍結肩 肩関節痛まとめ	臨床で遭遇することの多い肩痛を来す疾患について
14	定期試験	総復習、定期試験
15	定期試験返却、解説	定期試験の解説
16	腰殿下肢痛① 腰椎椎間板ヘルニア	臨床で遭遇することの多い腰下肢痛を来す疾患について
17	腰殿下肢痛② 梨状筋症候群	臨床で遭遇することの多い腰下肢痛を来す疾患について
18	腰殿下肢痛③ 腰部脊柱管狭窄症	臨床で遭遇することの多い腰下肢痛を来す疾患について
19	腰殿下肢痛④ 筋筋膜性疼痛・椎間関節性疼痛	臨床で遭遇することの多い腰下肢痛を来す疾患について
20	腰殿下肢痛まとめ	臨床で遭遇することの多い腰下肢痛を来す疾患について

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		臨床はり・きゅう学
21	膝関節痛① 変形性膝関節症	臨床で遭遇することの多い腰下肢痛を来す疾患について
22	膝関節痛② 前十字靱帯損傷	臨床で遭遇することの多い腰下肢痛を来す疾患について
23	膝関節痛③ 後十字靱帯/後外側支持機構損傷	臨床で遭遇することの多い膝痛を来す疾患について
24	膝関節痛④⑤ 内・外側側副靱帯損傷	臨床で遭遇することの多い膝痛を来す疾患について
25	膝関節痛⑥ 半月板損傷	臨床で遭遇することの多い膝痛を来す疾患について
26	膝関節痛まとめ	臨床で遭遇することの多い膝痛を来す疾患について
27	医療面接について①	臨床で遭遇することの多い膝痛を来す疾患について
28	医療面接について②	臨床で遭遇することの多い膝痛を来す疾患について
29	鍼灸カルテの記載方法①	患者から情報を得る上で重要な項目について
30	定期試験	総復習、定期試験
31	定期試験返却、解説	定期試験の解説
32	鍼灸カルテの記載方法②	患者から得た情報をまとめる方法について
33	ケーススタディ①	これまでの知識をもとに患者の病態を把握する
34	ケーススタディ②	これまでの知識をもとに患者の病態を把握する
35	ケーススタディ③	これまでの知識をもとに患者の病態を把握する
36	ケーススタディ④	これまでの知識をもとに患者の病態を把握する
37	ケーススタディ⑤	これまでの知識をもとに患者の病態を把握する
38	ケーススタディ⑥	これまでの知識をもとに患者の病態を把握する
39	定期試験(学年末試験)	総復習、定期試験
40	定期試験解説	定期試験の解説

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	東洋医学臨床論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	学期,2学期,3学期	10	対面+オンデマンド
担当教員	中村 理巧			
実務経験	-			
授業概要				
東洋医学臨床論は、各疾患に対して診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるようにする。 自分が担当する時間では、東洋医学的なアプローチを考える。				
到達目標				
各症状から証を立てることができる。 証に対して、適切な治則・治法を考え、治療の組み立てができる。				
準備学習				
教科書などにより、講義内容を把握しておく。 教科書、配布資料を参考に復習を行う。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	授業は配布プリントを中心に行う。 ・教科書『東洋医学臨床論』（東洋療法学校協会編、南江堂発行） 図解鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂発行			

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	東医臨とは、授業についての説明、その他Q&A
2	東洋医学概論のおさらい	東洋医学概論のおさらい
3	治療原則、治法	治療原則、治法について
4	治療穴と主治、選穴、配穴	治療穴と主治、選穴、配穴について
5	頭痛	頭痛について
6	顔面神経麻痺、顔面痛	顔面神経麻痺、顔面痛について
7	気分障害、眼精疲労	気分障害、眼精疲労について
8	睡眠障害、めまい	睡眠障害、めまいについて
9	食欲不振、歯痛	食欲不振、歯痛について
10	便秘、下痢	便秘、下痢について
11	悪心、嘔吐	悪心、嘔吐について
12	やせ、肥満	やせ、肥満について
13	咳嗽、喀痰	咳嗽、喀痰について
14	まとめ	まとめ
15	1学期末テスト	総復習・期末試験
16	テスト解説・鼻閉・鼻汁	テスト解説と鼻閉・鼻汁について
17	オンデマンド	東洋医学について①
18	オンデマンド	東洋医学について②
19	オンデマンド	東洋医学について③
20	オンデマンド	東洋医学について④

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		東洋医学臨床論
21	呼吸困難	呼吸困難について
22	脱毛症、排尿障害	脱毛症、排尿障害について
23	耳鳴り、難聴	耳鳴り、難聴について
24	ED、浮腫	ED、浮腫について
25	発熱	発熱について
26	冷え、のぼせ	冷え、のぼせについて
27	疲労と倦怠感	疲労と倦怠感について
28	歩行異常、出血（痔）、夜尿症	歩行異常、出血（痔）、夜尿症について
29	小児喘息、疳の虫	小児喘息、疳の虫について
30	まとめ	まとめ
31	2学期末テスト	総復習・期末試験
32	テスト解説、認知症	テスト解説、認知症について
33	月経異常（経早、経遅）	月経異常（経早、経遅）について
34	月経異常（経乱、更年期、帯下）	月経異常（経乱、更年期、帯下）について
35	月経異常（PMS、痛経）	月経異常（PMS、痛経）について
36	性器出血、不妊症	性器出血、不妊症について
37	骨盤位（逆子）、乳汁分泌不全、 つわり	骨盤位（逆子）、乳汁分泌不全、 つわりについて
38	まとめ	まとめ
39	3学期末テスト	総復習・期末試験
40	テスト解説	試験解説

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	東洋医学臨床論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	通年	10	対面＋オンデマンド
担当教員	寺田 奈生			
実務経験	-			
授業概要				
西洋医学（現代医学）的な診察診断、治療に関する解説。 特に鍼灸の適応不適応の判断（注意を要するもの＝レッドフラッグ）、疾患の鑑別要点、各種理学検査、解剖学・運動学知識に基づく経穴の運用などを学ぶ。				
到達目標				
主訴に対して考えられる疾患を挙げられる、疾患の鑑別要点が分かる、適切な検査項目が分かる、鍼灸の適不適が分かる、障害筋や障害神経、支配領域（デルマトーム・末梢神経の知覚領域、運動麻痺筋）に対する経穴が分かる。				
準備学習				
前の週に次回の資料を公開するため、一通り目を通したうえで、教科書の該当部分を確認してから授業に臨んでください。（教科書の持ち込みを推奨するが、強制はしない）				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	新版 東洋医学臨床論 （公益社団法人 東洋療法学校協会編 南江堂）			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	（オンデマンド）上肢の筋と経穴	オンデマンドオリエンテーション 本編で必要な上肢の筋と経穴の知識を確認
2	（オンデマンド）下肢・体幹の筋と経穴	本編で必要な下肢・体幹の筋と経穴の知識を確認
3	（オンデマンド）上・下肢の神経と経穴	本編で必要な上・下肢の脊髄神経の走行と経穴の知識を確認
4	（オンデマンド）頭部の筋・神経と経穴	本編で必要な頭部の筋、脳神経の走行と経穴の知識を確認
5	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅰ.概説（P55～64）	シラバスの説明（オリエンテーション） 西洋医学に基づく疼痛 疼痛の分類 鍼灸における治効理論
6	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅱ.頭痛（P69～74）	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
7	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅱ.頭痛（P77～78、80）	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
8	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅲ.顔面痛（P81～85）	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
9	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅲ.顔面痛（P87～88、90）	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
10	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅳ.関節痛（P90～95、97、98～	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握 総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
11	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅴ.頸肩腕痛（P99～104）	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
12	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅴ.頸肩腕痛（P105～107、108）	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
13	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅵ.上肢痛（P109～115）	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
14	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅵ.上肢痛（P116～119）	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
15	1学期まとめ（解剖・経穴～上肢痛）	期末試験（試験後、解説動画送信）
16	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅶ.肩関節痛（P119～121）	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
17	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅶ.肩関節痛（P123～124、126）	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
18	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅷ.腰下肢痛（P127～131）	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
19	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅷ.腰下肢痛（P133～135）	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
20	第2章 各論 第1節 疼痛 Ⅸ.腰痛（P136～141）	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		東洋医学臨床論
21	第2章 各論 第1節 疼痛 IX.腰痛 (P143～145)	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
22	第2章 各論 第1節 疼痛 X.下肢痛 (P146～149)	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
23	第2章 各論 第1節 疼痛 X.下肢痛 (P151～153)	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
24	第2章 各論 第1節 疼痛 XI.膝痛 (P154～159)	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
25	第2章 各論 第1節 疼痛 XI.膝痛 (P161～163)	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
26	第2章 各論 第1節 疼痛 XII.胸痛 (P164～166)	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
27	第2章 各論 第1節 疼痛 XII.胸痛 (P168～170)	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
28	第2章 各論 第2節 2-1肝系統 Ⅲ.めまい (P198～)	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
29	2学期まとめ（肩関節～胸痛）	期末試験（試験後、解説動画送信）
30	第2章 各論 第2節 2-1肝系統 Ⅲ.めまい (P198～)	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
31	第2章 各論 第2節 2-5腎系統 Ⅱ.耳鳴り・難聴 (P323～329)	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
32	第2章 各論 第2節 2-5腎系統 Ⅱ.耳鳴り・難聴 (P332～335)	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
33	第2章 各論 第4節 その他の証候 Ⅰ.顔面麻痺 (P405～)	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
34	第2章 各論 第4節 その他の証候 Ⅰ.顔面麻痺 (P405～)	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
35	第2章 各論 第5節 女性特有の疾患	注意を要するもの、西洋医学に基づく病態把握
36	第2章 各論 第5節 女性特有の疾患	総合判断、治療（西洋医学に基づく治療）、生活指導
37	（オンデマンド）腰部脊柱管狭窄症 と腰椎椎間板ヘルニア	過去問を元に考察し、文章題問題を作成する
38	（オンデマンド）頭痛と顔面痛	過去問を元に考察し、文章題問題を作成する
39	（オンデマンド）頸椎症・胸郭出口 症候群・上肢の末梢神経障害	過去問を元に考察し、文章題問題を作成する
40	（オンデマンド） 顔面麻痺と後遺症	過去問を元に考察し、文章題問題を作成する

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	病態生理学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期	2	対面
担当教員	菅原 悠衣			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			
授業概要				
おもな症状の定義・概念、病態生理、原因疾患、検査法、治療について学習する。				
到達目標				
鍼灸臨床現場での病態の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 様々な証候の病態生理について説明できるようになる。				
準備学習				
予習：教科書などにより講義内容を理解しておく。 復習：配布資料、教科書を参考に復習を行う。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	『臨床医学総論 第2版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社）を使用する。			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	第10章 おもな症状の診察法	頭痛、顔面痛
2	第10章 おもな症状の診察法	めまい、難聴
3	第10章 おもな症状の診察法	咳・痰、息切れ
4	第10章 おもな症状の診察法	動悸、胸痛
5	第10章 おもな症状の診察法	腹痛、便秘
6	第10章 おもな症状の診察法	下痢、月経異常
7	第10章 おもな症状の診察法	排尿障害、乏尿・無尿
8	第10章 おもな症状の診察法	浮腫
9	第10章 おもな症状の診察法	食欲不振、肥満、やせ（るいそう）
10	第10章 おもな症状の診察法	発熱、疲労・倦怠
11	第10章 おもな症状の診察法	発疹、ショック
12	第10章 おもな症状の診察法	出血傾向、易感染性
13	第10章 おもな症状の診察法	貧血、口渴、嘔声
14	第10章 おもな症状の診察法	悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害
15	定期試験	まとめ・定期試験
16	定期試験解説	定期試験解説

令和7年度 シラバス

科目名	社会はりきゅう学Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	1学期	1	対面
担当教員	白崎史剛 内山美紅			
実務経験	-			

授業概要

「社会あはき学」（東洋療法学校編、医道の日本社発行）の教科書をベースに講義・演習を行う。

到達目標

近年の医療環境と社会的ニーズを理解し、鍼灸師がどのような業務で行うべきかを学び、鍼灸師をとりまく社会環境を理解することができる。

準備學習

特になし

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
毎回の課題提出により評価をする

毎回の課題提出により評価を9る

使用テキスト	随時参考資料を提示する。
--------	--------------

随時参考資料を提示する。

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

授業計画

[illegible]

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名	社会はり・きゅう学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	2学期	2	対面
担当教員	寺田奈生、菅原悠衣			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要
「社会あはき学」（東洋療法学校編、医道の日本社発行）の教科書をベースに講義・演習を行う。
到達目標
近年の医療環境と社会的ニーズを理解し、鍼灸師がどのような業務で行うべきかを学び、鍼灸師ととりまく社会環境を理解することができる。
準備学習
特になし
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 毎回の課題提出により評価をする

使用テキスト	随時参考資料を提示する。
--------	--------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
2	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
3	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
4	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
5	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
6	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
7	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
8	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
9	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
10	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
11	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
12	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
13	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
14	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
15	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション
16	ゲストスピーカーによる講義	講義・デモンストレーション

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎はりきゅう実技 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	学期,2学期,3学期	2	演習
担当教員	内山美紅			
実務経験	-			
授業概要				
医療人の基本となる態度、衛生操作を身につける。鍼実技の基礎基本となる、刺鍼（片手挿管・直刺・斜刺・横刺）の操作が行えるように学ぶ。施術者としてのタオルワークや患者さんへの接し方を学ぶ。医療人としての心構えを持ち施術の一連の流れを行えるように学ぶ。				
到達目標				
医療人としての接する態度や衛生操作までを含めた一連の流れ。指定された身体各部位に安全かつ（直刺・斜刺・横刺）ができるようになる。3年次に行う実技認定試験で指定された刺鍼する部位に刺鍼				
準備学習				
習ったことを繰り返し反復練習をする。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	東洋療法学校協会「はりきゅう理論」第3版 東洋療法学校協会「はりきゅう実技＜基礎編＞第2版」 図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版 図解鍼灸療法技術ガイドⅠ 図解鍼灸療法技術ガイドⅡ			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	実技室の使い方・説明
2	鍼や道具の説明	今後の流れについて、片手挿管①
3	片手挿管の練習	片手挿管の練習②
4	片手挿管の練習	片手挿管の練習③
5	基本刺鍼動作の流れ①	切皮・弾入・刺入・抜鍼
6	基本刺鍼動作の流れ②	切皮・弾入・刺入・抜鍼
7	基本刺鍼動作の流れ③	切皮・弾入・刺入・抜鍼（片手挿管試験 仮）
8	基本刺鍼動作の練習①	切皮・弾入・直刺
9	個人刺鍼①	下腿にステンレス鍼で自己刺鍼
10	個人刺鍼②	下腿に銀鍼で自己刺鍼（切皮痛試験 仮）
11	対人刺鍼①	下腿に対人刺鍼
12	対人刺鍼②	下腿に対人刺鍼
13	対人刺鍼③	下腿に対人刺鍼
14	定期試験前練習	定期試験前練習
15	定期試験	定期試験・技術確認
16	定期試験	定期試験・技術確認
17	17手技	対人刺鍼で17手技の説明・練習①
18	17手技	対人刺鍼で17手技の説明・練習②
19	17手技	対人刺鍼で17手技の説明・練習③
20	17手技	対人刺鍼で17手技の説明・練習④

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		基礎はりきゅう実技Ⅰ
21	対人刺鍼	下腿の触診・刺鍼
22	対人刺鍼	下腿の触診・刺鍼
23	対人刺鍼	大腿の触診・刺鍼
24	対人刺鍼	大腿の触診・刺鍼
25	対人刺鍼	上腕・前腕の触診・刺鍼
26	対人刺鍼	腰部の触診・刺鍼
27	対人刺鍼	背部の触診・刺鍼
28	対人刺鍼	背部の触診・刺鍼
29	対人刺鍼	腹部の刺鍼
30	定期試験前練習	定期試験前練習
31	定期試験	定期試験・技術確認
32	定期試験	定期試験・技術確認
33	対人刺鍼	殿部の触診・刺鍼
34	対人刺鍼	鍼通電療法① 腰部
35	対人刺鍼	鍼通電療法② 下腿
36	対人刺鍼	顔面部・頭部の刺鍼
37	対人刺鍼	皮内鍼・円皮鍼
38	試験前練習	試験前練習
39	定期試験	定期試験・技術確認
40	定期試験	定期試験・技術確認

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎はりきゅう実技Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	学期,2学期,3学期	2	演習
担当教員	花香征貴			
実務経験	-			
授業概要				
医療人として適切な態度、衛生感を身につける。基礎的な施灸の行える技術と知識を身につけ安全に施術を行えるようにする。経穴の特性を理解しながら各種施灸法の訓練を行う。被験者となる学生同士の自主性が求められる内容とする。				
到達目標				
灸の基本的技術を身に付け実行できるようになることを目標とする。 透熱灸による人体へ配慮した施灸ができるようになる。 1学期：失眠穴へ半米粒大左右どちらかに施灸10壮/3分 2学期：患者を誘導し、決められた経穴を取穴、施灸を行う。各3壮/5分 3学期：失眠穴へ半米粒大2点5壮で10壮以上/3分				
準備学習				
施灸動作の反復練習、施灸穴の予習				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	東洋療法学校協会「はりきゅう理論」第3版 東洋療法学校協会「はりきゅう実技＜基礎編＞第2版」			

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	お灸について説明（使用道具の確認・灸の刺激量・医療過誤など）
2	艾炷の作成練習	透熱灸(米粒大・半米粒大の捻り方)
3	艾炷の作成練習	透熱灸(米粒大・半米粒大の捻り方)
4	艾炷の点火	竹の上で点火練習 1
5	艾炷の点火	竹の上で点火練習 2
6	艾炷の点火	竹の上で点火練習 3・緩和練習
7	艾炷の点火	竹の上で点火練習 4・緩和練習
8	個人施灸	自分の足三里への施灸
9	個人施灸	自分の足三里、三陰交への施灸
10	個人施灸	自分の合谷への施灸
11	対人施灸	相手の失眠への施灸
12	対人施灸	相手の足三里への施灸
13	対人施灸	相手の足三里、三陰交への施灸
14	対人施灸	相手の合谷への施灸
15	定期試験前練習	定期試験前練習
16	定期試験・まとめ	失眠穴へ半米粒大左右どちらかに施灸10壮/3分
17	対人施灸	下肢前面への施灸
18	対人施灸	下肢前面への施灸
19	対人施灸	前腕前面への施灸
20	対人施灸	前腕後面への施灸

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		基礎はりきゅう実技Ⅱ
21	対人施灸	足趾・足関節への施灸
22	対人施灸	手指・手関節への施灸
23	対人施灸	上背部への施灸
24	対人施灸	上背部への施灸
25	対人施灸	腰背部への施灸
26	対人施灸	腰背部への施灸
27	対人施灸	腰部への施灸
28	対人施灸	腹部への施灸
29	対人施灸	頭部への施灸
30	対人施灸	頸部への施灸
31	定期試験前練習	定期試験前練習
32	定期試験・まとめ	患者を誘導し、決められた経穴を取穴、施灸を行う。各3壮/5分
33	その他の施灸	隔物灸
34	その他の施灸	知熱灸
35	その他の施灸	吸角
36	その他の施灸	棒灸
37	その他の施灸	灸頭鍼
38	その他の施灸	灸頭鍼
39	定期試験前練習	定期試験前練習
40	定期試験・まとめ	失眠穴へ半米粒大2点5壮で10壮以上/3分

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎はりきゅう実技Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	2学期,3学期	2	演習
担当教員	久住喜春 内山美紅			
実務経験	-			
授業概要				
鍼灸師、医療人としてヒトの体に触れる心構え、座学で学んだ知識を実際の身体で骨や筋に触わって、確認する。				
到達目標				
安全な刺鍼や施灸ができるようになる。個人差(筋の付き方や骨指標) の理解できるようになる。				
準備学習				
事前：解剖の筋骨を事前によく学んでおく。 事後：自らの身体で触れる箇所を触れるなどして復習する				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	東洋療法学校協会「はりきゅう実技 <基礎編> 第2版」 図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版 図解鍼灸療法技術ガイドⅠ 図解鍼灸療法技術ガイドⅡ			

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業に進め方について、触り方についての注意事項等
2	全身の骨	骨模型による確認
3	上肢の模型	模型を使って触診
4	上肢の骨	肘・手関節のランドマーク
5	上肢帯の骨	肩関節、鎖骨と肩甲帯のランドマークの確認
6	小テスト	上肢及び上肢帯筋の確認テスト
7	小テスト総評	総復習
8	上肢の筋	上腕と前腕の筋
9	上肢帯の筋	ローテーターカフの確認、肩甲挙筋
10	小テスト	上肢及び上肢帯筋の確認テスト
11	小テスト総評	総復習
12	下肢 模型	模型を使って触診
13	骨盤	仙骨（腸骨稜）、ヤコビー線他
14	股関節	大腿骨のランドマーク
15	小テスト	骨盤と股関節の骨のランドマーク
16	小テスト総評	総復習 試験前練習
17	定期試験	まとめ・定期試験
18	定期試験	まとめ・定期試験
19	定期試験総評	総評
20	骨盤の筋	殿筋群

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		基礎はりきゅう実技Ⅲ
21	大腿部の筋	腸腰筋、四頭筋他
22	膝関節	膝蓋骨、大腿骨遠位部
23	足関節	内果、外果、踵骨隆起他
24	小テスト	股関節、膝関節、足関節のランドマーク確認
25	小テスト総評	総復習
26	頭頸部の模型	模型を使って触診
27	頭頸部・前胸部の骨	隆椎、胸骨（剣状突起・胸骨柄）乳様突起、外後頭隆起、下顎骨他
28	頭頸部・前胸部の筋	大胸筋、小胸筋、前鋸筋他
29	小テスト	頭頸部の骨ランドマークの確認
30	小テスト総評	総復習
31	背部の模型	模型を使って触診
32	胸椎	棘突起、肋骨角他
33	腰椎	棘突起、浮肋骨他
34	胸腰椎	通しでのランドマーク
35	胸腰椎	通しでのランドマーク
36	小テスト	背部のランドマーク
37	小テスト総評	総復習
38	定期試験	まとめ・定期試験
39	定期試験	まとめ・定期試験
40	定期試験総評	定期試験総評

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	応用はりきゅう実技 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	2学期,3学期	2	演習
担当教員	河原保裕			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			
授業概要				
座学で学んできた東洋医学（中医学）基礎理論と診断学を臨床と結び付けていく。				
到達目標				
病態把握、鑑別診断が行えるようにする。				
準備学習				
東洋医学概論など基礎知識の復習をしておく。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	担当教員から資料配布			

授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション 弁証論治
2	弁証について	八綱弁証 気血津液弁証 臓腑弁証 経絡弁証
3	四診①	四診 問診について
4	四診②	四診 問診について
5	四診③	四診 望診、問診について（舌診）
6	四診④	四診 望診、問診について（舌診）
7	四診⑤	四診 切診について（脈診）
8	四診⑥	四診 切診について（脈診）
9	臓腑弁証①	六腑の生理、病理、治療
10	臓腑弁証②	六腑の生理、病理、治療
11	臓腑弁証③	五臓の生理、病理、治療
12	臓腑弁証④	五臓の生理、病理、治療
13	臓腑弁証⑤	五臓の生理、病理、治療
14	臓腑弁証⑥	五臓の生理、病理、治療
15	臓腑弁証⑦	五臓の生理、病理、治療
16	臓腑弁証⑧	五臓の生理、病理、治療
17	経絡弁証①	経絡弁証
18	経絡弁証②	経絡弁証
19	東洋医学における痛み①	痛みの概念、鑑別
20	東洋医学における痛み②	痛みの概念、鑑別

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		応用はりきゅう実技Ⅰ
21	東洋医学における痛み③	痛みの概念、鑑別
22	東洋医学における痛み④	痛みの概念、鑑別
23	期末試験	期末試験・技術確認
24	期末試験	期末試験・技術確認
25	症例に基づく弁証論治①	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
26	症例に基づく弁証論治②	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
27	症例に基づく弁証論治③	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
28	症例に基づく弁証論治④	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
29	症例に基づく弁証論治⑤	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
30	症例に基づく弁証論治⑥	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
31	症例に基づく弁証論治⑦	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
32	症例に基づく弁証論治⑧	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
33	症例に基づく弁証論治⑨	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
34	症例に基づく弁証論治⑩	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
35	症例に基づく弁証論治⑪	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
36	症例に基づく弁証論治⑫	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
37	症例に基づく弁証論治⑬	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
38	症例に基づく弁証論治⑭	臨床で遭遇しやすい病証の鑑別と治療
39	期末試験	期末試験・技術確認
40	期末試験	期末試験・技術確認

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	応用はりきゅう実技Ⅱ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	2年	学期,2学期,3学期	2	演習	1	オリエンテーション・ガイダンス	応用はりきゅう学Ⅱの概要についての説明
担当教員	佐々木皓平				2	鍼通電療法の基本①（刺鍼練習）	刺入深度のコントロールについて
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。				3	鍼通電療法の基本②（刺鍼練習）	刺入深度のコントロールについて
授業概要							
昨今、鍼灸は様々な場で活用が期待されている。本時では特に整形外科を始めとする西洋医学の領域で鍼灸師が円滑に医療連携を行うために、体表解剖・触察の知識と、刺鍼の正確性を養うための科目である。							
到達目標							
①組織を選択し正確に触察できる。 ②組織を選択し正確に安全で再現性のある刺鍼ができる。 ③自身の触察、刺鍼している選択した組織を解剖学的に説明ができる。 ④自身の治療対象に選択した組織の所見をカルテに論理的に記載できる。							
準備学習							
実技室開放を有効に活用し、授業で学んだことを忠実に反復練習すること。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。							
使用テキスト	配布資料						
					4	鍼通電療法の基本③（刺鍼練習）	特殊な押し手での刺鍼
					5	鍼通電療法の基本④（刺鍼練習）	特殊な押し手での刺鍼とその深度のコントロール
					6	鍼通電療法の基本⑤（刺鍼練習）	人体に対する刺鍼とその深度のコントロール
					7	鍼通電療法の基本⑥（刺鍼練習）	人体に対する特殊な押手による刺鍼とその深度のコントロール
					8	鍼通電療法 僧帽筋上部線維	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					9	鍼通電療法 僧帽筋上部線維	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					10	鍼通電療法 僧帽筋上部線維	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					11	鍼通電療法 僧帽筋鎖骨部（頸部）線維	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					12	鍼通電療法 僧帽筋鎖骨部（頸部）線維	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					13	鍼通電療法 僧帽筋鎖骨部（頸部）線維	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					14	復習① 頸肩部	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					15	定期試験	上部僧帽筋のC6～鎖骨外側端の線維の鍼通電を評価する
					16	鍼通電療法 僧帽筋鎖骨部（頸部）線維	肩こりの治療で必要となる上部僧帽筋の鍼通電について
					17	鍼通電療法 棘上筋、棘下筋、小円筋	肩関節痛の治療で必要となる回旋筋腱板への鍼通電について
					18	鍼通電療法 棘上筋、棘下筋、小円筋	肩関節痛の治療で必要となる回旋筋腱板への鍼通電について
					19	鍼通電療法 大円筋、広背筋、	肩甲帯周辺に対する特殊な押し手を用いた刺鍼と鍼通電
					20	鍼通電療法 大円筋、広背筋、	肩甲帯周辺に対する特殊な押し手を用いた刺鍼と鍼通電

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		応用はりきゅう実技Ⅱ
21	復習② 肩関節部	肩関節周囲の鍼通電について復習を行う
22	鍼通電療法 多裂筋（最長筋、腸肋筋）	特定の腰痛の治療で必要となる多裂筋の鍼通電について
23	鍼通電療法 多裂筋（最長筋、腸肋筋）	特定の腰痛の治療で必要となる多裂筋の鍼通電について
24	鍼通電療法 中殿筋、大腿筋膜張筋	股関節周囲痛の治療で必要となる筋の鍼通電について
25	鍼通電療法 内側広筋斜頭、外側広筋斜走線維	膝関節痛の治療で必要となる筋の鍼通電について
26	復習③ 腰殿部	腰臀部の鍼通電について復習を行う
27	鍼通電療法 内側広筋斜頭、外側広筋斜走線維、大腿直筋	膝関節痛の治療で必要となる筋の鍼通電について
28	鍼通電療法 大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋①	膝関節痛の治療で必要となる筋の鍼通電について
29	鍼通電療法 大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋②	膝関節痛の治療で必要となる筋の鍼通電について
30	復習④ 膝関節部	膝関節周囲の鍼通電について復習を行う
31	定期試験	上部僧帽筋頸部（鎖骨部）線維の鍼通電を評価する
32	鍼通電療法 大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋②	膝関節痛の治療で必要となる筋の鍼通電について
33	ケーススタディ①	患者を想定した検査法から鍼通電を行う
34	ケーススタディ②	患者を想定した検査法から鍼通電を行う
35	ケーススタディ③	患者を想定した検査法から鍼通電を行う
36	ケーススタディ④	患者を想定した検査法から鍼通電を行う
37	ケーススタディ⑤	患者を想定した検査法から鍼通電を行う
38	ケーススタディ⑥	患者を想定した検査法から鍼通電を行う
39	定期試験	大腿部に対する鍼通電を評価する
40	予備	進行を考慮して資料にある部位の鍼通電を行う

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	応用はりきゅう実技Ⅲ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	2年	1学期	1	演習	1	低周波通電療法の基礎	鍼通電療法の歴史、作用や効果
担当教員	森田義之				2	トリガーポイント鍼療法の基礎	トリガーポイント刺鍼法の歴史、効果
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。				3	刺鍼を行う為に必要な基礎	皮下での鍼先のコントロール
授業概要					4	僧帽筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
整形外科疾患を中心に、現代医学的視点に立った施術方法（トリガーポイント鍼療法を中心に）を学び身に付ける。					5	肩甲挙筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
					6	三角筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
					7	棘下筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
到達目標					8	肩甲下筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
整形外科疾患に関して低周波通電療法、トリガーポイント鍼療法などができるようになるために、鍼灸基礎と応用技術を身につける。					9	脊柱起立筋に対するアプローチ①	運動学や臨床的応用
					10	脊柱起立筋に対するアプローチ②	運動学や臨床的応用
					11	大臀筋に対するアプローチ①	運動学や臨床的応用
準備学習					12	大臀筋に対するアプローチ②	運動学や臨床的応用
体幹、四肢の筋肉の起始停止・作用・支配神経・血管を理解する。1年、2年で学習した鍼灸の施術方法の基礎を徹底する					13	中臀筋・小臀筋に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
					14	大腿後面に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
					15	大腿前面に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
成績評価					16	下腿に対するアプローチ	運動学や臨床的応用
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）					17	定期テスト	まとめ・期末試験
					18	定期テスト	まとめ・期末試験
					19	フィードバック	試験解説
					20	まとめ	総復習
					使用テキスト	こちらが用意した資料を中心におこなう	

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	臨床はりきゅう実技Ⅰ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	3年	学期,2学期,3学期	2	演習	1	ガイダンス	経絡治療について
担当教員	金子 公憲				2	補寫手技	鍼法の補寫手技について
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。				3	押し手、刺し手	押し手と刺し手と流注
授業概要					4	刺鍼練習	背部刺鍼練習
経絡治療を学ぶ。東洋医学的診断による証のたて方を学ぶ。実技練習を中心とする経絡治療。臨床に必要な鍼法、灸法を学ぶ。治療練習と並行して特殊鍼法を学ぶ。					5	四診	四診と背部刺鍼
到達目標					6	脈診	六部定位脈診
1.2年次に習得した知識、技術の向上。実践的治療形式の反復練習により、臨床の実際を身につける。経絡治療特有の脈診により、証をたてた治療ができるようになる。					7	証と脈	証と六部定位脈診と鍼
準備学習					8	基本四証（本治法と標治法）	基本四証と背部刺鍼
六部定位脈診の確認と経絡の流注、経穴を確認しておくこと。難業十六難の腹診部位をみなおすこと。					9	基本四証	基本四証と腹診と背部刺鍼（標治法）
成績評価					10	お互いに練習	基本四証と背部刺鍼
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。					11	お互いに練習	基本四証と背部刺鍼と知熱灸
使用テキスト	プリント配布、東洋医学概論、経絡経穴概論。				12	お互いに練習	基本四証と背部刺鍼と知熱灸
					13	実技試験	試験・技術確認
					14	基本四証と要穴	基本四証と要穴の確認
					15	基本四証と要穴	基本四証と要穴への刺鍼
					16	基本四証と要穴	問診、脈診、腹診と要穴と刺鍼
					17	本治法	本治法と要穴
					18	本治法	本治法と補寫手技
					19	本治法	本治法と補寫手技
					20	お互いに練習	本治法と補寫手技

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		臨床はりきゅう実技Ⅰ
21	お互いに練習	本治法と標治法と補寫手技
22	お互いに練習	本治法と標治法と補寫手技
23	お互いに練習	本治法と標治法と補寫手技と知熱灸
24	お互いに練習	本治法と標治法と補寫手技と知熱灸
25	お互いに練習	本治法と標治法と補寫手技と知熱灸
26	実技試験	試験・技術確認
27	実技試験	試験・技術確認
28	総括・復習	試験内容の確認と復習
29	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
30	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
31	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
32	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
33	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
34	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
35	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
36	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
37	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
38	特殊鍼法	臨床によくある症例を実践練習
39	総括	臨床実践の注意点
40	総括	臨床実践の注意点

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床はりきゅう実技Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	1学期,2学期	2	演習
担当教員	河原保裕			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			
授業概要				
中医学の考え方を基礎に、臨床の現場に近い形で、東洋医学による診察・診断・治療ができるようになり、また自分の診断結果や治療内容について説明することができるようにする。また、そのための刺鍼トレーニングを行う。				
到達目標				
1. 各疾患に対し、基本的な処方、刺鍼が行えるようにする。 2. 東洋医学的な自分の診察スタイル、診察の流れが作れる。 3. 問題解決能力（証決定、証鑑別、治療の組み立て、施術を含む）を身につける。 4. 自分の判断した証決定、治療の組み立てについて説明することができる。				
準備学習				
東洋医学（中医学・東洋医学概論）の基礎を復習する。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	担当教員より資料を配布する。			

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	中医学の基本刺鍼術①	切皮、刺入、刺鍼転向
3	中医学の基本刺鍼術②	補瀉手技
4	中医学の基本刺鍼術③	補瀉手技
5	中医学の基本刺鍼術④	補瀉手技
6	中医学の基本刺鍼術⑤	補瀉手技
7	整形外科疾患に対する論治①	腰痛
8	整形外科疾患に対する論治②	肩こり
9	整形外科疾患に対する論治③	腰部脊柱管狭窄症
10	整形外科疾患に対する論治④	頸痛
11	整形外科疾患に対する論治⑤	痺証 坐骨神経痛
12	整形外科疾患に対する論治⑥	膝痛
13	整形外科疾患に対する論治⑦	肩関節周囲炎
14	整形外科疾患に対する論治⑧	挟脊刺 盤龍刺
15	弁証論治とは	弁証論治
16	内科系疾患に対する論治①	便秘
17	内科系疾患に対する論治②	胃脘痛
18	内科系疾患に対する論治②	胃脘痛
19	期末試験	期末試験・技術確認
20	期末試験	期末試験・技術確認

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		臨床はりきゅう実技Ⅱ
21	内科系疾患に対する論治③	頭痛
22	内科系疾患に対する論治③	頭痛
23	内科系疾患に対する論治④	咳嗽
24	内科系疾患に対する論治④	咳嗽
25	内科系疾患に対する論治⑤	月経痛
26	内科系疾患に対する論治⑤	月経痛
27	瘀血に対する特殊治療	吸玉療法
28	瘀血に対する特殊治療	吸玉療法
29	内科系疾患に対する論治	泌尿器科疾患
30	内科系疾患に対する論治	眼精疲労
31	内科系疾患に対する論治	耳鍼（花粉症）
32	内科系疾患に対する論治	耳鍼（応用）
33	脳血管障害に対する論治	認知症
34	脳血管障害に対する論治	認知症
35	脳血管障害に対する論治	醒脳開竅法
36	脳血管障害に対する論治	醒脳開竅法
37	養生	養生
38	総復習	試験対策
39	期末試験	期末試験・技術確認
40	期末試験	期末試験・技術確認

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	臨床はりきゅう実技Ⅲ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	3年	2学期,3学期	2	演習	1	女性のライフサイクルと東洋医学（小井土）	月経関連症状について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
担当教員	小井土善彦、似田敦・小野寺文人、久住喜春、寺田奈生				2	女性と東洋医学（小井土）	女性と東洋医学について学び、臨床基礎として触診のトレーニングを行う。
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。				3	月経随伴症状（小井土）	月経随伴症状について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
授業概要					4	月経困難症に対する鍼灸治療（小井土）	月経困難症に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。総合実習。
臨床の現場で遭遇することの多い、腰・膝・頸・肩などの関節疾患に対する現代針灸による治療の基本を講義と実技を通して学習する。（似田・小野寺）					5	不妊症（小井土）	不妊症について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
到達目標					6	女性不妊症に対する鍼灸治療（小井土）	不妊症に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。総合実習。（レポート課題提示）
鍼灸治療で最も患者ニーズの多い、疾患の診療の基本を習得することで、実際に治せる治療家になるための第一歩を形成する。（似田・小野寺）					7	更年期障害（小井土）	更年期障害について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
腰痛・肩こり治療を中心に、鍼治療により姿勢と症状の変化を目指す。（寺田）					8	更年期障害に対する鍼灸治療（小井土）	更年期障害に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。
準備学習					9	背腰痛講義（似田・小野寺）	背腰痛に対する現代針灸の方法
臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学臨床論、経絡経穴学の内容を復習しておくこと。（似田・小野寺）					10	背腰痛実技①（似田・小野寺）	椎間関節性腰痛、長短回旋筋痛、多裂筋痛、メーヅ症候群
成績評価					11	背腰痛実技②（似田・小野寺）	大腰筋性腰痛と腰仙筋膜深葉痛、腰方形筋痛、八髎穴刺針
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。レポート課題にて評価する（小井土・似田・小野寺）					12	腰下肢痛講義（似田・小野寺）	腰下肢痛に対する現代針灸の方法
					13	腰下肢痛実技①（似田・小野寺）	梨状筋症候群、中小殿筋痛、大殿筋痛、居髂と環跳刺針
					14	腰下肢痛②（似田・小野寺）	仙腸関節刺針と矯正法、馬尾性間欠性跛行症
					15	膝関節痛講義（似田・小野寺）	慢性膝関節痛に対する現代針灸のみかた
					16	膝関節痛実技①（似田・小野寺）	大腿直筋停止部痛、内側・外側広筋停止部痛、膝関節包刺針
					17	膝関節痛実技②（似田・小野寺）	鷲足炎、内転筋管症候群、オスグッド病、膝窩筋腱炎
					18	頸腕痛講義（似田・小野寺）	頸部痛に対する現代針灸の方法
					19	頸腕痛実技①（似田・小野寺）	後頭下筋緊張、頭板状筋痛、頭半棘筋痛
					20	頸腕痛実技②（似田・小野寺）	前斜角筋症候群、腕神経叢刺針、過外転症候群
使用テキスト	常見整形外科疾患に対する現代針灸治療（似田オリジナル）						

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		臨床はりきゅう実技Ⅲ
21	肩関節痛（似田・小野寺）	肩関節痛に対する現代針灸の方法
22	肩関節痛実技①（似田・小野寺）	棘上筋痛、棘下筋痛、小円筋痛
23	肩関節痛実技②（似田・小野寺）	肩甲下筋痛、大円筋刺針、条山穴刺針、凍結肩の運動療法
24	実技総復習（似田・小野寺）	これまで学習した実技項目を総復習、レポート提出
25	手技	
26	手技	
27	手技	
28	手技	
29	手技	
30	手技	
31	手技	
32	手技	
33	無鍼管刺入の練習（寺田）	無鍼管での刺鍼練習（復習）
34	下腿・大腿後面の刺鍼練習（寺田）	反応点を見つけ出し、筋を緩める
35	背部の触診と督脈（寺田）	脊柱起立筋を中心とした触診と督脈への刺鍼
36	殿部の刺鍼練習（寺田）	大殿筋・中殿筋・梨状筋の触診と刺鍼
37	頸部・肩背部の刺鍼練習（寺田）	僧帽筋・肩甲挙筋・頭半棘筋・菱形筋の触診と刺鍼
38	腰痛治療（寺田）	背部（督脈）～下腿後面を利用した腰痛治療
39	肩こり・治療（寺田）	背部（督脈）～頸部を利用した肩こり治療
40	姿勢観察と変化（寺田）	立位姿勢の観察と刺鍼による変化

[illegible]

令和7年度 シラバス

科目名	臨床実習Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	1年	通年	1	実習
担当教員	寺田奈生、久住喜春、白崎史剛、菅原悠衣、花香征貴、内山美紅、中村理			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要

臨床実習Ⅰは治療院実習であり、一般に「鍼灸院」「鍼灸整骨院」と呼ばれる施設を実習の場とする。実習Ⅰは「治療院の流れを知る」がテーマである。開院から閉院までの1日の流れ、患者さんの来院からお帰りになるまでの流れなどを見学する。

到達目標

鍼灸師のタイムスケジュール、フローを観察し、治療院での働き方を知る。限られた治療時間の中で患者さんの満足度を上げるための工夫、時間配分、説明の仕方などを見学し。自分が働くイメージできる。

準備學習

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。

▼成績評価の方法

使用テキスト	
--------	--

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

授業計画

[illegible]

令和7年度 シラバス

科目名	臨床実習Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	通年	1	対面
担当教員	寺田奈生、久住喜春、白崎史剛、菅原悠衣、花香征貴、内山美紅、中村理			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			

授業概要

臨床実習Ⅱは治療院実習であり、一般に「鍼灸院」「鍼灸整骨院」と呼ばれる施設を実習の場とする。臨床実習Ⅱは「治療の内容」がテーマ。診察や診断の方法を見学したり、医療面接の流れ、検査項目の選び方や順序など、指導者がどんなことを考えてやっているかを考える。

到達目標

・先生の診察・診断・治療を見の中で、なぜこの質問をしているのか、なぜこの検査が必要なのか、なぜこの施術部位を選んでいるかを自分なりに考察できる。・根拠のある診断・治療についてどのようにインフォームドコンセントすれば、一般の患者に理解してもらえるかを学ぶ。

準備學習

実習先に向かうにあたり、社会人としてのマナーやルールを学ぶための事前準備時間を設ける。実習時間は1日4時間または8時間と基本とする。実習日報にてその日学んだことや気づいたこと、感じたことを記入し、後日学校に提出する。

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。

使用テキスト	
--------	--

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

授業計画

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
科目名	臨床実習Ⅲ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
鍼灸学科	3年				1	実習ガイダンス	実習Ⅲについてのガイダンス
担当教員	寺田奈生、久住喜春、白崎史剛、菅原悠衣、花香征貴、内山美紅、中村理				2	前半治療院実習（2 4 時間）	各治療院の実習
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。				3	後半治療院実習(2 4 時間)	各治療院での実習
					4	お礼状の作成	
授業概要							
臨床実習Ⅲは治療院実習であり、一般に「鍼灸院」「鍼灸整骨院」と呼ばれる施設を実習の場とする。実習Ⅲでは「接遇・マナー」をテーマとし、選ばれる鍼灸院・鍼灸師として身に着けるべきスキルや患者対応はどのようにされているのかを学ぶ。							
到達目標							
選ばれる鍼灸院・鍼灸師として、患者様との接し方を見学し、治療技術以外でのオペレーションで特に心掛けているところを学ぶ。将来開業をした際や、自身が「こんな鍼灸師にみてもらいたい」とイメージする。							
準備学習							
成績評価							
▼成績評価の方法							
使用テキスト							

令和7年度 シラバス

科目名	施設実習			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	2年	通年	1	実習
担当教員	寺田奈生、菅原悠衣			
実務経験	-			

授業概要

- ①スポーツトレーナー実習（スポーツトレーナー）
 - ②整形外科実習（リハビリ部門スタッフ）
 - ③リハビリ実習（有料の脳梗塞リハビリでの鍼灸師）
 - ④機能訓練実習（デイケアサービスなどを手掛ける介護事業所での機能訓練指導員）
- 以上４つの実習先で見学実習を行う。

到達目標

治療院以外での鍼灸師が働けるフィールドを見て、それぞれの分野で必要な知識・技能を知る。
他の介護職や医療業種の人たちとの連携の様子をみる。
鍼灸師とは何なのか？他の職業の人に理解してもらうにはどんな説明が必要なのかを考える。

準備學習

見学実習後、1週間以内にデイリーノート（実習日報）の提出を行うこと。
機能訓練実習では実際の利用者様をモデルに運動プログラムを自分なりに考えて作成・提出する。

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には言めない。

▼成績評価の方法

使用テキスト	
--------	--

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

授業計画

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	東洋医療総合講座Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	2学期,3学期	5	講義
担当教員	寺田奈生、久住喜春、花香征貴、菅原悠衣			
実務経験	施術所等において、はり師・きゅう師としての実務経験を有する。			
授業概要				
座学は、医療面接・視診・触診・検査法等の各種診察法の復習を行う。演習は、クラスを2つの分け治療および症例検討を行う。治療は原則3人グループで治療者、患者、評価者に分かれて、治療におけるすべての過程を自分で考え実施する。もう1つのグループは前週の症例について発表し、症例検討を行う。				
到達目標				
診察から診断、治療、指導、クロージングに至る、一連の治療の流れを理解し、実施できる。 カルテに一連の流れを記載できる。 患者への細かな気遣い、効率の良い時間配分、説明責任を果たし、患者を納得させるに足る鍼灸師を目指す。				
準備学習				
診察・診断過程における知識不足の場合には2年生までの授業内容の総復習が必要。 鍼灸技術の向上など、治療にあたっての力量不足があれば、練習を行う必要がある。 症例発表のためのスライド作成は各自行うこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法				
使用テキスト				
特になし。必要に応じてデータ資料等を配布する。				

授業計画		
回数	単元	内容
1	座学①	オリエンテーション、医療面接について
2	座学②	医療面接のロールプレイ
3	座学③	SOAP カルテの記載について
4	座学④	検査法とその病態生理
5	座学⑤	医療過誤とならないために
6	演習①	A治療①・B症例検討
7	演習②10 /14 1・4限	電子カルテの使い方について
8	座学⑥	振り返りとディスカッション
9	演習③	A症例発表①・B治療①
10	演習④	A症例発表①・B治療①
11	座学⑦	振り返りとディスカッション
12	座学⑧	振り返りとディスカッション
13	演習⑤	A治療②・B症例検討①
14	演習⑥	A治療②・B症例検討①
15	座学⑨	振り返りとディスカッション
16	演習⑦	A症例発表②・B治療②
17	演習⑧	A症例発表②・B治療②
18	座学⑩	振り返りとディスカッション
19	演習⑨	A治療③・B症例検討②
20	演習⑩	A治療③・B症例検討②

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		東洋医療総合講座Ⅰ
21	座学⑪	振り返りとディスカッション
22	演習⑪	A症例発表③・B治療③
23	演習⑫	A症例発表③・B治療③
24	座学⑫	振り返りとディスカッション
25	座学⑬	振り返りとディスカッション
26	演習⑬	A治療④・B症例検討③
27	演習⑭	A治療④・B症例検討③
28	座学⑭	振り返りとディスカッション
29	演習⑮	A症例発表④・B治療④
30	演習⑯	A症例発表④・B治療④
31	演習⑰	A治療⑤・B症例検討④
32	演習⑱	A治療⑤・B症例検討④
33	演習⑲	A症例発表⑤・B治療⑤
34	演習⑳	A症例発表⑤・B治療⑤
35	演習㉑	A治療⑥・B症例検討⑤
36	演習㉒	A治療⑥・B症例検討⑤
37	演習㉓	A症例発表⑥・B治療⑥
38	演習㉔	A症例発表⑥・B治療⑥
39	演習㉕	B症例発表⑥・総括
40	演習㉖	B症例発表⑥・総括

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	東洋医療総合講座Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
鍼灸学科	3年	学期,2学期,3学期	5	講義
担当教員	中橋空輝			
実務経験	▼実務経験			
授業概要				
これまで学んできたことの総まとめ。学んできたことを他の学生にも説明し教えあう事で知識の向上・維持を行う				
到達目標				
グループワークを行うことでアウトプットをすることによって自学自習を行い知識の向上に繋がる。				
準備学習				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法				
使用テキスト				

アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	国家試験に向けて	国家試験に向けての勉強スケジュール作成
2	国家試験に向けて	国家試験に向けての勉強優先順位、スケジュールの決め
3	四択問題の解き方	四択問題の解き方
4	経絡経穴の覚え方	経絡経穴の勉強手順
5	経絡経穴	要穴表の復習
6	経絡経穴	要穴表に出てくる経穴の取穴方法の取り方
7	経絡経穴	要穴表に出てくる経穴の取穴方法の取り方
8	解剖	筋起始停止
9	解剖	血管・神経の走行
10	生理学	ホルモン
11	生理学	腎機能
12	解剖・生理	交感神経・副交感神経
13	東洋医学概論	五臓六腑生理作用
14	東洋医学概論	病床の特徴
15	総まとめ	総復習
16	基礎まとめ	基礎まとめ
17	各論	肝・胆・脾・腎臓の疾患
18	各論	内分泌疾患
19	各論	運動器系疾患
20	総論	理学検査

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜鍼灸学科＞

科目名		東洋医療総合講座Ⅱ
21	総論	異常歩行
22	東洋医学臨床論	西洋系
23	東洋医学臨床論	西洋系
24	東洋医学臨床論	東洋系
25	東洋医学臨床論	東洋系
26	リハビリ	脳卒中・脊髄損傷
27	経絡経穴	まとめ
28	経絡経穴	まとめ
29	総まとめ	総復習
30	国家試験対策	四択問題
31	国家試験対策	四択問題
32	国家試験対策	四択問題
33	国家試験対策	四択問題
34	国家試験対策	四択問題
35	国家試験対策	四択問題
36	総まとめ	総復習
37	国家試験対策	四択問題
38	国家試験対策	四択問題
39	国家試験対策	四択問題
40	国家試験対策	四択問題

[illegible]